

第62集

# 研究紀要

三好教育研究所

令和3（2021）年度

## ごあいさつ

寒さもようやくやわらぎ、春の足音を感じる季節となりました。日頃は、三好教育会の振興にご支援ご協力いただき、深く感謝申し上げます。

三好教育会並びに三好教育研究所は平成29年度より「変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く日本人の育成」を研究主題として取り組んでまいりました。今日、社会の変化はAIに代表されるような科学技術の進歩や高度情報化による生活の変化など、めざましいものがあります。幼い頃、こんな世の中がくればいいのになあと憧れたSF小説やアニメで描かれた未来世界が急速に現実のものとなっていることを感じます。そのスピードは、今回の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一層加速しています。教育現場においても、GIGAスクール構想や統合型業務支援システム、遠隔地とのオンラインによる会議など大きな変化に直面し、新たな対応が多い一年となりました。また、幼稚園教育要領並びに小・中学校学習指導要領の完全実施が進み、主体的・対話的で深い学びの実現を目指して各園各校では、授業改善や研修が進んでいることと思います。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のため、三好教育研究発表会をオンライン開催とし、次の2校から研究実践を発表していただきました。

○子どもの姿から考える幼小の接続について

～遊びから学びへ向かう子どもたち～

三縄幼稚園（現 白地幼稚園）主任教諭 真鍋 友子

○持続可能な食環境（食育ベース）の構築と「食の力」を身に付けた児童の育成

～「マスク・手洗い消毒・3密を避ける」だけじゃない！！

『体の中からコロナ感染予防対策』～

辻小学校 教諭 大岩 彩菜

園児・児童に身に付けさせたい力を明確にして、連携や交流を通して計画的・継続的に取り組まれた発表でした。また、三好地区の園・学校や子どもたちの特性を捉えた持続可能な教育活動の素晴らしい発表であったと思います。

研究発表の後、「ポジティブな行動支援で幸せな園・学校づくり」と題して、徳島県立総合教育センター特別支援・相談課指導主事樋口直樹氏にご講演いただきました。ポジティブな行動支援について具体的な内容や方法を説明していただくと共に、演習を通して理解を深めることができました。「学び手は常に正しい」、この言葉は教師としての原点に立ち返らされる言葉であったと思います。ご教示いただいた内容を先生方の日々の教育活動に生かしていただけましたら幸いです。

この研究紀要は、各学校に1部ずつ配布させていただくとともに、三好教育研究所のホームページに掲載しますので、ご活用ください。

終わりにになりましたが、本研究紀要の発行にあたりまして、ご指導、ご助言いただいた先生方、研究協力校（園）並びに委嘱研究員の先生方、三好教育研究所の皆様、そして関係各位に心より感謝申し上げますとともに、会員の先生方の教育活動が今後ますます成果の上がるものとなり、ご活躍されることを祈念して、ごあいさつとさせていただきます。

令和4年3月

三好教育会 会長 鶴田 眞由美

## 目 次

あいさつ

三好教育会 会長 鶴田 眞由美

### —— 研究指定校研究 ——

- 子どもの姿から考える幼小の接続について …………… 1  
～遊びから学びへ向かう子どもたち～  
三縄幼稚園（現 白地幼稚園）主任教諭 真鍋 友子
- 持続可能な食環境（食育ベース）の構築と「食の力」を身に付けた児童の育成 …… 12  
～「マスク・手洗い消毒・3密を避ける」だけじゃない！！  
『体の中からコロナ感染予防対策』～  
辻小学校 教諭 大岩 彩菜

### —— 教育研究所研究員研究 ——

- 低学年における「平仮名・片仮名」の読みの流暢性を目指して …………… 23  
三好教育研究所 研究員 上野 三千代
- プログラミング教育の普及と指導方法の探究 …………… 36  
～2年間の実践研究を終えて～  
三好教育研究所 研究員 橋本 早弥香
- 既刊「研究紀要」の内容一覧（平成元年～） …………… 47

## 研究主題

# 子どもの姿から考える幼小の接続について ～遊びから学びへ向かう子どもたち～

三縄幼稚園（現 白地幼稚園）  
主任教諭 真鍋 友子

## 1 はじめに

平成29年、幼稚園教育要領の改訂にともない、幼児教育で育みたい資質・能力として「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱が示された。これらの柱は、小学校以降の教育にも引き継がれており、教育要領及び学習指導要領の改訂では、子どもの発達に沿った連続性を大切にしたいものであると考えられる。さらに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示され、幼児期と児童期とを円滑に接続することが求められている。

令和2年4月、三縄幼稚園に赴任した私は、園児3名という少人数に加えて、小学校の教室の一室を借りて保育室として使用するなど、それまで勤務していた池田幼稚園とは全く違う環境に初めは戸惑うことも多かった。しかし、小学生と同じ校舎内で一緒に生活する中で、これまで機会が少なかった、小学生との交流や職員間での情報交換の機会を多くもつことができる環境であると気づき、この環境を生かして、幼小の接続について研究を進めていくことにした。また、現在勤めている白地幼稚園も、併設する白地小学校が三縄小学校と同程度の規模で、様々な行事や活動を通して、日々、小学校と交流する機会が多いため、引き続き本研究を進めていった。

## 2 園の概要

### （三縄幼稚園）

- ・小学校との併設園で兼任園長である。園児数の減少に伴い、平成27年度から小学校校舎内に移転し、一教室を保育室として使用する。幼稚園職員は、小学校職員室を使用しているため、日々、小学校教諭と園児や児童の情報交換を密に行うことができる。
- ・令和2年度は、4歳児1名（入園児）5歳児2名（入園児1名、進級児1名）の計3名の混合クラスである。



三縄小学校



校舎内の三縄幼稚園



小学校運動場から見た白地幼稚園

### （白地幼稚園）

- ・三縄幼稚園と同様に、小学校との併設園で兼任園長である。園舎は、小学校の校舎とは離れているが、道路をはさんで目の前に小学校の運動場があるため、道路を横断して、すぐに小学校に行くことができる。
- ・令和3年度は、4歳児2名（入園児）5歳児3名（進級児）の計5名の混合クラスである。

- 両園ともに、吉野川沿いに位置し、周囲を山に囲まれた自然豊かな環境にある。園舎の周辺は自然に恵まれ四季折々の草花、虫や小動物などの生き物と触れ合うことができる。
- 小学校と合同で行う行事が多く、小学生と一緒に活動に参加したり、休み時間は小学校の運動場や体育館で一緒に遊んだりと交流する機会が多い。
- 幼稚園職員も小学校の職員会や職員研修に参加させてもらうことが多く、職員間での情報交換がしやすい環境である。様々な行事や活動と一緒に参加することで、小学生と接する機会が多く、幼小の職員間で園児や児童の育ちを共有することができる機会も多い。

### 3 研究の概要

「令和2年度 三縄幼稚園」及び「令和3年度 白地幼稚園」で、日々の保育実践をとおして、子どもたちの姿や保育者の援助等を振り返り、以下の3つの視点について研究に取り組む。

- ① 「時間の区切り」の違いから考える幼稚園生活と小学校生活の接続について
- ② 小学生との関わりをとおして育つ幼児の姿について
- ③ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした幼児の育ちについて

### 4 実践事例

視点① 「時間の区切り」の違いから考える幼稚園生活と小学校生活の接続について

事例1 『もう休み時間終わり？』 4月下旬（R2年度 三縄幼稚園）

入園式から数週間たち、入園児2人も園生活に慣れてきた頃、コロナ感染予防のため臨時休業中の小学生が久しぶりに登校し、3人の園児たちは一緒に遊ぶことを心待ちにする。

「小学生まだかな〜？」運動場の片隅のブランコに座ってOさんがつぶやく。「先生、いつになったら休み時間？」Hさんの問いかけに「長い針が3のところに来たら休み時間だよ」と保育者が答える。運動場から見える大きな時計を見上げ「あともうちょっと！」と喜ぶ子どもたち。



チャイムが鳴ると、元気よく小学生が駆けてくる。園児の姿を見つけて「幼稚園さん一緒に遊ぼう！」と声を掛けてくれる小学生たちに、3人の子どもたちも嬉しそうに答え、鬼ごっこをしたり、うんていやブランコで一緒に遊んだり小学生と遊ぶ時間を存分に楽しむ。

しばらく時間がたって、時計を確認した小学生たちが声を掛け合いながら、校舎の方へ戻っていく。「また遊ぼうな」と声を掛けながら戻っていく小学生に「もう入るん？」と不思議そうなFさん。チャイムが鳴り、「チャイムが鳴ったら休み時間は終わりなんよ」とHさんが2人に説明する。「もう休み時間終わりなん？」Oさんは残念そうにつぶやいた。

(考察)

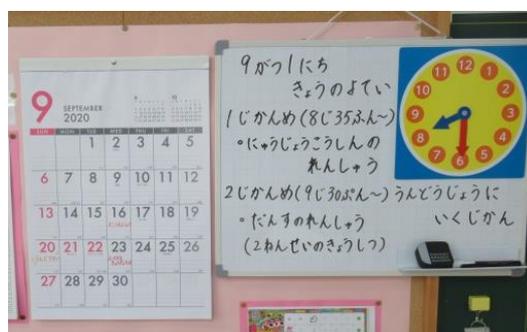
1・2年生の教室と並んで保育室がある三縄幼稚園の環境で生活しながら、入園児のOさんとFさんもしだいに、小学生は「お勉強」(授業)があり、休み時間になると一緒に遊べるということがわかってきた。進級児のHさんは、一年間、小学生と一緒に生活する中で、休み時間は時間が決まっていることや、チャイムが合図になっていることを理解している。入園したばかりのOさんやF

さんにとっては、せっかく一緒に遊べる時間が来たと思っていたのに、すぐに終わってしまったことを残念に思う気持ちがとてもよく伝わってきた。この事例から、幼稚園と小学校では1日の時間の流れが大きく違うことに気づき、この違いに子どもたちも戸惑うのではないかと、そのために幼児期にはどういった手立てが必要であるかを考えることにした。

小学校では、45分授業の時間が1校時毎に決まっており、1日の流れが時間毎に区切られていて、小学生は、時間を意識しながら見通しをもって生活する姿が見られる。幼稚園では、全体的に時間の区切りが大きく、子どもたちが主体的に遊び、ゆったりとした時間の中で遊びを深めていけるよう配慮している。その日の活動や子どもたちの遊びの様子に応じて、保育者が流動的に時間の区切りを調整することが多い。このように園・学校生活で時間の区切りが大きく違う中で、幼児期の終わりまでに、子どもたちが時間の見通しをもって生活できるようになるための手立てが必要であると考えた。まずは、視覚的援助が必要であると考え、手作りの時計の模型を設置し、片付けの時間などを示して、その時計の時刻を見て確認できるようにした。保育者もあらかじめ「長い針が6のところになったら、お片付けを始めよう」など、子どもたちに時間を見せて確認させながら伝えるようにしたことで、子どもたちも時計を見て「もうすぐ長い針が6のところだよ」「お片付けの時間が近づいて来ているよ」と声を掛け合って確認し合う姿が見られるようになった。時間を意識することに必要性を感じながら、見通しをもって生活する姿が見られている。

### 幼稚園・小学校の1日の活動例

幼稚園		小学校
登園	8 : 0 0	登校
○主体的に 取り組む活動	9 : 0 0	朝の会
○クラスや園 全体での活動	1 0 : 0 0	1校時
・製作活動		2校時
・リズム遊び		業間休み
・集団遊び 等	1 1 : 0 0	3校時
○給食準備		
○給食	1 2 : 0 0	4校時
○降園準備		給食
○降園活動	1 3 : 0 0	昼休み
降園 預かり保育	1 3 : 3 0	清掃



時間を意識し、見通しをもって活動するための表示



登園後、朝の支度をしながら、その日の予定を確認する子どもたち

事例2 『いつできるの?』 6月上旬 (R3年度 白地幼稚園)

「ここは、ぼくの誕生日!」Yさんが6月の予定が書き込まれたカレンダーを指さしながら嬉しそうに話す。「プール開きもあるんだって。ぼくの誕生日はここだったよ」Tさんもカレンダーをのぞき込んで指さす。それを聞いてやってきたFさんも「私はここ!」と指さし、「は・ぴ・わ・く・しゅ・う・か・い」とカレンダーの文字を読む。「何するのかな〜?」「楽しみやな!」と盛り上がる子どもたち。



「そういえば、梅ジュースはいつできるの?」Yさんは、2年生と一緒に小学校で梅の実の収穫や梅のヘタ取りをしたこと、2年生から梅を漬けた瓶を見せてもらったことを思い出して、保育者に聞く。「梅ジュースができるまで、しばらく時間がかかるって言っていたね」「このあたりにはできるかな?」保育者がカレンダーを指さすと、Yさんは「梅ジュースできるの楽しみやな〜」とほほえんだ。

(考察)

見通しをもって生活するための環境構成の工夫として、時間の表示だけでなく、予定表やカレンダーを活用し、行事や活動の予定がわかるように掲示した。あらかじめ、その日の予定をホワイトボードに書いたり、月の予定をカレンダーに書き込んだりしておくことで、事例2のように子どもたちがカレンダー等を確認しながら、先の予定や行事を楽しみにする姿が見られるようになっていった。先の予定を楽しみにしながら、カレンダーの日付を数えて「〇〇まで後何日」と言って、子ども同士で確認し合う姿も見られている。事例2でも、Yさんは、昨年度、年少児での経験から、梅ジュースができるまでにしばらく時間がかかることを知っていて、カレンダーを見て「いつできるの?」と保育者に聞いたことがわかる。見通しをもって生活できるような様々な環境構成を工夫していくことで、子どもたちが自分自身の生活経験と照らし合わせながら、「きのう」「あした」などの時間の感覚や、日付や曜日などの概念を身につけていくことにつながるのではないかと考える。このように見通しをもって主体的に生活できるようになることで、園生活に期待をもって楽しみに登園する姿が見られるようになっていった。



梅の実の収穫の様子



2年生と一緒にした梅のヘタ取り

## 視点② 小学生との関わりをとおして育つ幼児の姿について

三縄幼稚園、白地幼稚園ともに、運動会や学習発表会などの行事だけではなく、普段から様々な行事や活動に小学生と一緒に参加したり、休み時間は一緒に遊んだりするなど小学生と交流する機会が多い。三縄小学校では「ハッピーグループ」、白地小学校では「なかよし班」とそれぞれ縦割り班があり、幼稚園児もメンバーに入って、年間を通して様々な行事と一緒に活動している。

三縄幼稚園では、1～3年生の体育の授業や、おもちゃまつりに招待してもらったり、日頃から授業や活動に参加させてもらったり、幼稚園の誕生会やクリスマス会に小学生を招待したりするなど、交流を深めていった。

白地幼稚園では、2年生と一緒に小学校で梅の実の収穫や梅のヘタ取りをしたり、交通安全教室や「ハピ☆ワク集会」に小学生と一緒に参加したりして交流している。

幼小の仲間の一員となって一緒に活動することで、幼稚園児にとって、小学生が身近な存在となり親しみをもって関わる姿が見られている。



「ハッピーグループ」の活動（三縄幼稚園）



誕生会（三縄幼稚園）



「ハピ☆ワク集会」（白地幼稚園）



休み時間に小学生と遊ぶ様子（白地幼稚園）

### 事例3 『見てもらいたい』 9月下旬（R2年度 三縄幼稚園）

「令和2年度 三縄幼小運動会」では、例年行っている種目のダンスを、幼稚園から6年生まで全員で踊ることになった。職員間で話し合い、子どもたちに人気の「鬼滅の刃」の主題歌「紅蓮華」を幼稚園から3年生、4年生から6年生とパート毎に分かれて踊ることになり、園児たちも運動会に向けて小学生と一緒に練習に励んだ。



『紅蓮華』のダンス踊ろう！」お気に入りとなったダンスを、保育室でCDをかけながら踊る子どもたち。「4・5・6年生のところももう覚えたんで」「こんなポーズがあったよな」「〇〇ちゃん上手よな～」「〇〇くんもかっこいいよな！」4～6年生のダンスを思い出しながら、楽しそうに話して盛り上がる。Fさんが「先生はお客さんな」と言って、保育者の前で何度もくり返し踊るが、「もっと、



お客さんいっぱい見に来てほしいな」と物足りなそうにOさんが言う。3人で相談して、園長先生と養護の先生に見に来てもらい、園長先生の提案で体育館の舞台の上で披露し、嬉しそうな子どもたち。Hさんが「そうだ！お姉ちゃんたちにも見てもらおう」と提案し、Hさんの姉がいる5年生の教室に誘いに行く。昼休みに体育館に見に来てくれることになり、「ドキドキするなあ」と子どもたちは、緊張と楽しみが入り混じった様子で話す。昼休みになると、5年生のお兄さん、お姉さん



んたちが担任の先生と一緒に体育館に見に来てくれ、少し緊張していた子どもたちは、舞台上がって一生懸命踊る。曲が終わると、5年生の皆が拍手と歓声を贈ってくれ、子どもたちは、少し照れながらも満足そうにほほえむ。「次は皆で一緒に踊ろうよ！」と5年生も舞台上がって来てくれ、皆で一緒に踊る子どもたちは笑顔があふれていた。

#### (考察)

普段から色々な行事や活動に小学生と一緒に参加しているが、運動会に向けて毎日一緒に練習に励んだ日々は、より一層小学生と過ごす濃い時間になっていただろう。小学生のお兄さん、お姉さんが、徒競走やリレーで一所懸命走る姿や、かっこよくダンスを踊ったり、鼓笛の演奏をしたりする姿に刺激を受け、幼稚園の子どもたちにとって、憧れの対象となっていたことがわかる。

特に、子どもたちにとってお気に入りの『紅蓮華』のダンスを、かっこよく踊る小学生の姿に憧れ、夢中になって振り付けを覚えようとする姿から、自分たちも踊れるようになりたいと子どもたちの意欲が高まっていることが伝わってきた。また、「もっとたくさんの人に見てもらいたい」という言葉から、見たものや体験したことを再現しながら表現する喜びを、色々な人と共有したいという思いが感じられる。小学校の先生や小学生のお兄さん、お姉さんなど、日頃から身近で親しみを感じている人たちに見てもらい、認めてもらうことで、自分たちを受け止めてくれる存在であるということ再認識できたのではないかと思う。5年生の皆が舞台上がって一緒に踊ってくれたことで、より一層、表現する楽しさを共有しながら、一体感を味わうことができたように感じた。

小学生と一緒に過ごし、様々な体験を共有することで、刺激を受けたり、憧れの気持ちをもったりしながら、自分たちもやってみたい、できるようになりたいと思う意欲が高まっていくのではないかと考える。小学生との交流をとおして、幼児は、小学校を身近に感じることができ、小学生になることに憧れや期待をもって、安心して小学校生活へつなげていくことができると考える。

### 視点③ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした幼児の育ちについて

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領に示された5領域のねらい及び内容に基づく活動全体をとおして、資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、保育者が指導を行う際に考慮するものである。小学校学習指導要領にも示されており、幼児期から児童期の発達の流れを理解する手がかりとなっている。幼児が幼児期の終わりまでに育みたい姿を「10の姿」として具体的に整理したものが、以下の10項目である。

<b>①健康な心と体</b> 幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
<b>②自立心</b> 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
<b>③協同性</b> 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
<b>④道徳性・規範意識の芽生え</b> 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
<b>⑤社会生活との関わり</b> 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
<b>⑥思考力の芽生え</b> 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
<b>⑦自然との関わり・生命尊重</b> 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを意識するようになる。

⑧数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で，数量や図形，標識や文字などに親しむ体験を重ねたり，標識や文字の役割に気付いたりし，自らの必要感に基づきこれらを活用し，興味や関心，感覚をもつようになる。

⑨言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で，絵本や物語などに親しみながら，豊かな言葉や表現を身に付け，経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり，相手の話を注意して聞いたりし，言葉による伝え合いを楽しむようになる。

⑩豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で，様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き，感じたことや考えたことを自分で表現したり，友達同士で表現する過程を楽しんだりし，表現する喜びを味わい，意欲をもつようになる。

事例4『どっちが速い?』 10月(R2年度 三縄幼稚園)

園周辺を散策し，大小様々な種類のドングリを見つけて拾い集めて来た。「たくさん集めたね」「何個あるかな？」子どもたちは机の上にドングリを並べて，数を数える。途中何度かドングリが転がるのに苦戦しながら並べ，数え終わると今度はドングリを転がして遊び始める。保育者が机やダンボールで傾斜を作ると，その上をドングリが勢いよく転がっていくのを喜び，くり返し転がして遊ぶ子どもたち。「みんなで一緒にしよう」Oさんの提案に，3人がスタート位置でドングリを持ったまま待ち「せーの！」の合図で手を離して，どれが速かったか競争して楽しむ。



しばらくすると，Hさんが「トンネルがあったら面白そう」とテープの芯をトンネルに見立ててダンボールに貼り始める。それを見てOさん，Fさんも「面白そうやな！じゃあこれも貼ってみたいら?」「Fくん，ここにテープ貼るから，ここ持ってくれる?」「ここに入ったら100点ってことにしようよ」と色々な素材を使って，アイデアを出し合いながら協力して作っていく。試行錯誤しながらできあがってくると，Oさんが「これは『どんぐりめいろ』にしよう」と提案する。「皆にもしてもらいたいな」と小学生や小学校の先生たちを誘って遊びに来てもらおうと，「ここがスタートでここに入ったら100点です」とはりきって説明する子どもたち。Hさんは，紙に誰が何点に入ったかを書いていく。「このドングリは，よく転がるな」遊びに来てくれた小学生が色々なドングリを転がして試すのを見て，子どもたちも繰り返し転がして試してみる。



数日後，Hさんがドングリを持って，運動場のすべり台のところに行く。「どっちが速いでしょう?」Hさんがすべり台の上で2つのドングリを持って皆に聞く。「こっち!」「大きいほう」OさんとFさんが答える。Hさんが手を離すと2つのドングリが転がり，子どもたちはどちらが速いかじっと見つめていた。

(考察)

幼児が身近な秋の自然に触れ、自然物に興味をもって遊びに取り入れようとする姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点を踏まえて捉えていくと、幼児が遊びを通して何を学んでいるかを読み取っていくことができる。ドングリを並べて、数を数えたり、点数を書いたりする姿から⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚が、「みんなで一緒にしよう」と自分たちでルールを考えながら友達と一緒に遊ぶ姿から③協同性や④道徳性・規範意識の芽生え、色々な素材を使って、アイデアを出し合いながら協力して作っていく姿から③協同性や⑥思考力の芽生え、⑨言葉による伝え合いなどが育っていることがわかる。また、Hさんがすべり台の上から2つのドングリを転がし「どっちが速いでしょう？」と皆に聞く姿から、遊びを通して感じたり気づいたりしたことを生かして、考えたり試したりと遊びが深まっていることがわかり、遊びの連続性が感じられる。どちらが速いかを考え予想する子どもたちの姿から、遊びの中で、物の性質や仕組みなどを感じ、⑥思考力の芽生えにつながっていることがわかる。このように、ひとつの遊びの中でも幼児に育つものは多面的であることがわかり、幼児期において遊びを通して総合的に学ぶことが「学びの芽生え」となり、小学校以降の学びへとつながっていくことがわかる。幼小で連携を深め、幼稚園から小学校への学びのつながりを共通理解していきながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して幼児の育ちを伝えていくことが円滑な幼小の接続につながっていくと考える。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の読み取り

幼児の姿	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
<p>「何個あるかな？」 子どもたちは机の上にドングリを並べて、数を数える</p> 	<p>⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p>
<p>ドングリが転がるのに苦戦しながら並べ、数え終わると今度はドングリを転がして遊び始める</p>	<p>②自立心 ⑦自然との関わり・生命尊重</p>
<p>「みんなで一緒にしよう」Oさんの提案に、3人がスタート位置でドングリを持ったまま待ち「せーの！」の合図で手を離して、どれが速かったか競争して楽しむ</p> 	<p>③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え</p>
<p>「トンネルがあったら面白そう」とテープの芯をトンネルに見立ててダンボールに貼り始める</p>	<p>⑥思考力の芽生え ⑩豊かな感性と表現</p>

<p>「面白そうやな！じゃあこれも貼ってみたら？」  「Fくん、ここにテープ貼るから、ここ持ってくれる？」  「ここに入ったら100点ってことにしようよ」と色々な素材を使って、アイデアを出し合いながら協力して作っていく</p> 	<p>③協同性  ⑥思考力の芽生え  ⑨言葉による伝え合い</p>
<p>「これは『どんぐりめいろ』にしよう」</p>	<p>⑨言葉による伝え合い</p>
<p>「皆にもしてもらいたいな」と小学生や小学校の先生たちを誘って遊びに来てもらう</p>	<p>⑤社会生活との関わり</p>
<p>「ここがスタートでここに入ったら100点です」とはりきって説明する</p> 	<p>⑨言葉による伝え合い</p>
<p>紙に誰が何点に入ったかを書いていく</p> 	<p>⑧数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚</p>
<p>「どっちが速いでしょう？」  Hさんがすべり台の上で2つのどんぐりを持って皆に聞く。「こっち！」「大きいほう」OさんとFさんが答える。Hさんが手を離すと2つのどんぐりが転がり、子どもたちはどちらが速いかじっと見つめていた</p> 	<p>⑥思考力の芽生え  ⑧数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚  ⑨言葉による伝え合い</p>

## 5 成果と課題

### 視点① 「時間の区切り」の違いから考える幼稚園生活と小学校生活の接続について

- 小学校生活との違いから生まれる不安や戸惑いを減らし、学校生活に円滑につなげていくために、時間の見通しをもって生活する力が必要であると考え。そのために必要な環境構成や援助を工夫することで、時間を意識することに必要性を感じ、次の活動を見通して自ら進んで行動したり、先の予定や行事を楽しみに園生活に期待をもって登園したりと、見通しをもって主体的に生活する姿が見られるようになってきた。
- 幼稚園生活から小学校生活への滑らかな接続ができるよう、まずは教諭同士が幼稚園・小学校生活の違いを十分に把握し、相互理解を深めていく必要があると考える。

### 視点② 小学生との関わりをとおして育つ幼児の姿について

- 小学生との交流をとおして、幼児は、小学校を身近に感じることができ、小学生になることに憧れや期待をもって、安心して小学校生活への接続ができると考える。
- 三縄幼稚園・白地幼稚園など小学校に併設している小規模の園では、交流の機会をもちやすいが、規模の大きい園や学校では、交流の機会を増やすことが難しいことや、コロナ禍の現状では、交流活動する上で配慮が必要などの課題がある。

### 視点③ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした幼児の育ちについて

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から幼児の姿を読み取ることで、幼児が遊びや生活をとおして経験していることが、小学校以降の学びにどのようなつながっていくのかを意識しながら、保育実践に取り組むことができる。
- 小学校へ幼児の育ちについて伝えていくために「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用していけるよう、幼小で連携を深め、幼稚園から小学校への学びのつながりを共通理解していく必要があると考える。

## 6 おわりに

今回の研究を通して、幼児期と児童期とを円滑に接続するためには、幼児と児童の交流だけではなく、幼稚園と小学校の教諭同士が連携して、それぞれの生活や学び、子どもたちの育ちを共通理解していくことが大切であるとわかった。私自身、三縄幼稚園・白地幼稚園で小学生と交流する中で、小学校生活を身近で知ることができ、幼稚園生活との違いに気づいたり、小学生の姿から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校以降どのようにつながっていくのかを学んだりできたように思う。

しかし、園や学校の規模によって、交流や情報交換ができる機会には、ばらつきがあり、校種を超えて、ともに研修する機会も決して多いとは言えない現状である。そういった中で、今回、「三好教育研究発表会」が、校種を超えて、それぞれの校種での研究を学ぶことができる貴重な場であると再認識した。今後もこういった研修の場を大切に、校種を超えて連携し、相互理解を深めていきながら、子どもの育ちをつなげていくことが、同じ地域で育つ子どもたちをともに支えていくために必要であると考え。

今回の研究を通して学んだことを生かし、今後もこういった研修の機会を大切にしながら、資質向上に努め、日々の保育実践に取り組んでいきたい。

研究主題

# 持続可能な食環境（食育ベース）の構築と「食の力」を身に付けた児童の育成 ～「マスク・手洗い消毒・3密を避ける」だけじゃない！！

『体の中からコロナ感染予防対策』～

辻小学校 教諭 大岩 彩菜

## 1 はじめに

明治7年に創立された本校は、吉野川と四国山地にはさまれた自然豊かな環境にあり、地域や保護者は学校教育に関心が高くたいへん協力的である。昭和の時代から、図書館教育やランチルームでの一斉給食など、特色ある教育活動を進めてきた（新型コロナウイルス感染症予防のため、昨年度から一斉給食は休止中）。

現在は児童数72名の小規模校となったが、教職員と児童や家庭とのつながりは強く、児童一人一人の主体性や思考力を育てる教育活動を展開している。

本校は、平成29年度に文部科学省「つながる食育推進事業」の指定を受け、学校・家庭・地域の三者がつながり「子どもの生きる力を育む食育」の取組を続けてきた。そして今年度は、食育推進目標を「持続可能な食環境(食育ベース)の構築と『食の力』を身に付けた児童の育成」とし、食育を推進している。『食の力』とは、食に関する知識理解と自己管理能力を育成することで、本校が名付けたものである。



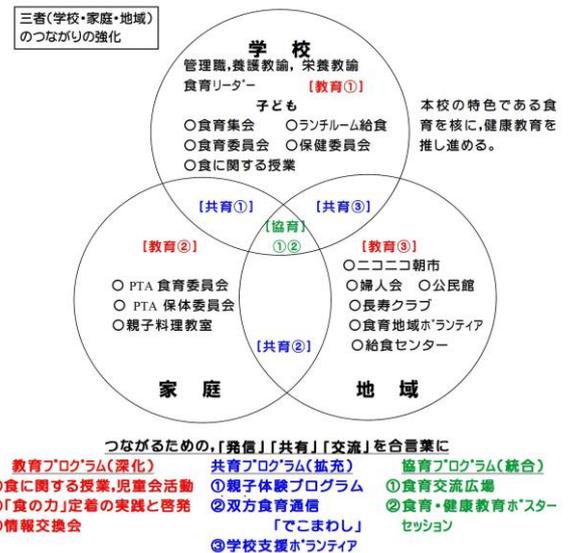
ランチルームでの一斉給食

## 2 研究の概要

本校の食育の大きなねらいは、教育・共育・協育の3つの「きょういく」プログラムを通して、家庭の食への理解を深めるとともに、児童の「食の力」を育成し、家庭や地域に発信してつなげていくことである。



平成29年度 文部科学省指定「つながる食育推進事業」



本校の特色である食育を核に、健康教育を推進する。

学校・家庭・地域の三者のつながりを強化する構図

## 3 取組の紹介（平成30年度～令和2年度の実践から）

### (1) 食に関する授業

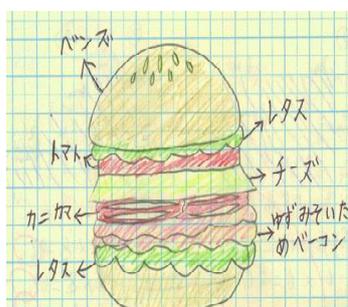
子どもたちが食を「自分事」として捉え、知識や意識の変容を実践へと結びつけたいと考え、『授業における食育』の実践を進めてきた。

① 4年生の実践「オリジナル辻子バーガーを作ろう」

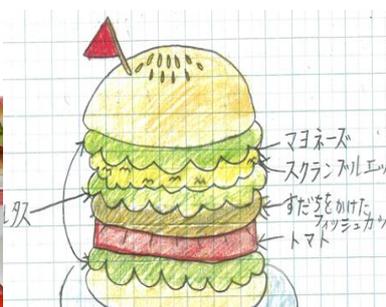
4年生の総合的な学習の時間の食育のテーマは、「すごいぞ！徳島県特産物調査隊」である。徳島県にはたくさんの特産物があることを知り、これを実際に使った「オリジナルバーガー」を考案することで、より徳島県の特産物への理解と愛着が深まると考え、実践した。



4つのグループに分かれ、それぞれが会社として「オリジナルバーガー」を考案した。柚子味噌で炒めたベーコンを挟む「1つだけのスペシャルバーガー」や、フィッシュカツにすだちをかけて、ほのかな香りも楽しめる「栄養満点！サラダ風バーガー」など、どの会社が考案したバーガーも、徳島県の特産物を取り入れ、「赤・黄・緑」の食品群を使って栄養バランスを考えていた。また、考案した後は、各会社が自社のハンバーガーのアピールポイントをプレゼンし、投票で選ばれたバーガーを実際にみんなで作り、試食した。



1つだけのスペシャルバーガー



栄養満点！サラダ風バーガー



この活動を通して、子どもたちは「自分たちが知っている特産物を工夫して組み合わせることで、こんなにもおいしいものが作れるんだ。」ということを実感し、これからはいろいろなものを作りたいという意欲につながった。

② 6年生の実践「目指せ！パワフル100歳大作戦」

体育の保健領域の学習で、「病原体や生活習慣が元になって起こる病気の予防や飲酒・喫煙・薬物乱用の害について学習し、それらの予防法や問題解決の方法を知る」というめあてで実践した。知識理解だけでなく、「実践力」が大きく関わってくる単元であり、今までに食育で身につけてきた知識を生活習慣病予防のための実践へとつなげた。

食育の視点から、生活習慣病について考えたとき、「糖分・塩分・脂肪」の取り過ぎが問題となる。これらが普段よく食べているおやつにいかにも多く含まれているかを知ることを通して、余分三兄弟と名付けた「糖分・塩分・脂肪」を取り過ぎない食生活について考えた。食に関する健康課題を自分事として捉え、実践への意欲をもつことに重点をおいた学習活動を展開した。

また、この単元では、三好警察署・三好市保健師の方な





(2) 児童会活動

児童会活動では、『児童主体の食育』の実践に取り組んでいる。食育委員会の4～6年生の児童5名が、朝の活動の時間に「食育集会」を実施している。食育委員会の児童が、給食の献立や栄養教諭作成の「給食のお話」の中から、みんなに知ってほしいことや食育で大切な内容だと思うことをクイズとして作成している。

また、「食事マナーアップ作戦」として、子どもたちの食事マナーの向上をめざす取組の場もある。



食育委員会による「食育クイズ」



食事マナーアップ作戦

昨年度の食育集会のテーマは、「行事食について」であった。本校の児童の食育の課題の一つが「伝統的な食文化や行事食を意識して食べること」である。そこで、食育委員会から、行事食についてのクイズを出し、児童の行事食に対する知識を深め、関心をもってもらうことをねらいとして実施した。

さらに、「食育集会」での学びを実践につなげるために、6年生が家庭科の調理実習で行事食の「月見団子」を作った。日本人にとっての行事食とは、「昔ながらに伝わってきた大切な文化である」「野菜や動物の命に感謝する食べ物である」などの感想から、児童なりに行事食について関心を深めることができていると実感した。



(3) PTA 活動

「PTA 食育委員会」による『保護者主体の食育』の実践である。本校では、平成29年度から「食育通信でこまわし」を編集発行しており、平成30年度からは、新しく発足した PTA 食育委員会が発行している。「食育通信でこまわし」は、学校での取組や学びを家庭に発信していくための一つの手段となっている。

「食育通信でこまわし」は、年2回発行している。第1回 PTA 食育委員会で「朝食」について話題となり、「簡単朝食メニュー」について募集を呼びかけてはどうかという意見が出た。それを受けて投稿していただいた「チャレンジメニュー」を第2回でこまわしに掲載した。



PTA食育委員会

第1回 『こまわし』

**みんなで作って盛り盛り!!**  
第2回分の内容アップ大作戦!!

朝ごはんは1日の活動の大切なエネルギーです。でも、忙しい朝... 忙しい朝は、朝食が、なかなか準備できないから... そこで、食育委員会からの提案です。朝ごはんの内容をアップしませんか? **チャレンジメニュー**をぜひお願いします。

子どもと一緒に作る朝ごはん  
子どもだけで作る朝ごはん  
冷凍や電子レンジでも作る朝ごはん  
このキーワードで食育委員会で考えました朝ごはんです。

レシピで探すだけの朝ごはんから、簡単なレシピ... 子どもでも作れます。

他にも見えないか、アイデア募集! 簡単なレシピも、簡単を思いです。

**みんなで盛り盛り!!**  
ドットレタスを洗って、レタスは手で絞る。お酢を絞ったレタスのお酢の匂いを取り除く。お酢の匂いを取り除く。お酢の匂いを取り除く。お酢の匂いを取り除く。

**「レンジ朝食」の「レンジでオムレツ」**  
①レンジでオムレツを作る。②レンジでオムレツを作る。③レンジでオムレツを作る。④レンジでオムレツを作る。

**「レンジ朝食」の「レンジでオムレツ」**  
①レンジでオムレツを作る。②レンジでオムレツを作る。③レンジでオムレツを作る。④レンジでオムレツを作る。

**チャレンジメニューのアイデア 大募集!!**  
メニューを募集しています。学校からメールを配信しますので、メールで募集材料も届きます。募集期間は、10月15日(月)～10月31日(日)までです。募集期間は、10月15日(月)～10月31日(日)までです。

6年生「ワンプレート朝食」(調理実習) 子どもたちが考えた朝ごはん

**みんなで作って盛り盛り!!**  
第2回分の内容アップ大作戦!!

朝ごはんのアイデアを募集しています。学校からメールを配信しますので、メールで募集材料も届きます。募集期間は、10月15日(月)～10月31日(日)までです。募集期間は、10月15日(月)～10月31日(日)までです。

**チャレンジメニューのアイデア**

**キノコのうま煮**  
(材料) ①パスタ ②キノコ ③オリーブオイル ④塩 ⑤醤油 ⑥砂糖 ⑦水 ⑧コンソメ ⑨バター ⑩チーズ ⑪パルメザンチーズ ⑫オリーブオイル ⑬塩 ⑭醤油 ⑮砂糖 ⑯水 ⑰コンソメ ⑱バター ⑲チーズ ⑳パルメザンチーズ

**卵焼きのベーコン巻き**  
(材料) ①ベーコン ②卵 ③醤油 ④塩 ⑤オリーブオイル ⑥バター ⑦コンソメ ⑧水 ⑨パルメザンチーズ ⑩オリーブオイル ⑪塩 ⑫醤油 ⑬砂糖 ⑭水 ⑮コンソメ ⑯バター ⑰チーズ ⑱パルメザンチーズ

**朝ごはん簡単オムレツ**  
(材料) ①卵 ②オリーブオイル ③塩 ④醤油 ⑤砂糖 ⑥水 ⑦コンソメ ⑧バター ⑨チーズ ⑩パルメザンチーズ ⑪オリーブオイル ⑫塩 ⑬醤油 ⑭砂糖 ⑮水 ⑯コンソメ ⑰バター ⑱チーズ ⑲パルメザンチーズ

**焼きリンゴ**  
(材料) ①リンゴ ②砂糖 ③バター ④コンソメ ⑤水 ⑥パルメザンチーズ ⑦オリーブオイル ⑧塩 ⑨醤油 ⑩砂糖 ⑪水 ⑫コンソメ ⑬バター ⑭チーズ ⑮パルメザンチーズ

**とろける卵焼きパン**  
(材料) ①卵 ②オリーブオイル ③塩 ④醤油 ⑤砂糖 ⑥水 ⑦コンソメ ⑧バター ⑨チーズ ⑩パルメザンチーズ ⑪オリーブオイル ⑫塩 ⑬醤油 ⑭砂糖 ⑮水 ⑯コンソメ ⑰バター ⑱チーズ ⑲パルメザンチーズ

このように、PTA 食育委員会は、PTA で食育について協議・情報交換する重要な場となっている。

また、PTA 食育委員会は、保護者とともに、食育について学ぶ場ともなっている。昨年度は、コロナ禍における食育の取り組みとして、「免疫力を高めるために家庭でできること」をテーマに意見交換した。その際に、保護者で、食育委員会のメンバーでもある市役所の管理栄養士の方から免疫力アップについて教えていただく機会を設けた。

**毎日の食事で、どんなものを食べるのいいかな?**

毎日の食事で、どんなものを食べるのいいかな? サバ缶の活用。サバ缶だけでなく、イワシやサケなどいろいろな魚を食べるといいですね。魚はたんぱく質と脂質が豊富で、免疫力を高めるのに役立ちます。

毎日食べるのいいのは、やはりお味噌汁です。味噌汁は発酵食品だし、具だくさん汁にすると、栄養もたっぷりです。味噌、豆腐、たんぱく質、わかめや野菜を入れると、さらに栄養がアップします。

免疫力低下の原因は、不規則な生活やストレス、睡眠不足、栄養不足、運動不足、加齢などが関係しています。免疫力を高めるためには、規則正しい生活を送り、十分な睡眠をとる、バランスのとれた食事をとる、適度な運動をする、ストレスを軽減することが大切です。

**ポイント**  
エトクトのために肉などを食べるのは、毎日肉を食べることです。

**毎日とりたい栄養素**  
たんぱく質... コレステロールも心配ですが、体には必要な栄養素です。年齢によって適量を食べることが大切です。たんぱく質は、筋肉や臓器の維持に必要です。たんぱく質は、筋肉や臓器の維持に必要です。たんぱく質は、筋肉や臓器の維持に必要です。

1日のトータルでバランスよくとれるように考えましょう!!

毎日の食事で、どんなものを食べるのいいかな?

毎日食べるのいいのは、やはりお味噌汁です。味噌汁は発酵食品だし、具だくさん汁にすると、栄養もたっぷりです。味噌、豆腐、たんぱく質、わかめや野菜を入れると、さらに栄養がアップします。

免疫力アップ... 腸の状態を良くすることが大切 (腸を元気にしよう) 腸の状態を良くすることは、免疫力を高めるのに役立ちます。腸の状態を良くするために、食物繊維を多く含む食品を食べることが大切です。

**ポイント**  
バランスのとれた食事を毎日とることが、コロナに負けない体をつくる。

16

(4) 食育の発表・啓発活動

食育の発表・啓発活動は、『家庭・地域へ向けての食育の学びの発信』についての実践である。

毎年12月に開催する「学習発表会」は、学習で身につけた「食の力」の実践を、保護者や地域の方に伝えるよい機会となっている。



また、1年間の各学年の食育の実践内容を発表し、意見交換する場として、「食育・健康教育ポスターセッション」を開催してきた。

【令和元年度】



1年 「給食センターのひみつ」  
「ニコニコ朝市」  
「カリふわスイポテシューマイ」



2年 「給食コッパンのひみつ」  
「野菜大好き元気モリモリ大作戦」



3年 「食品ロス」  
「早寝早起き朝ご飯」



4年 「ごみはどなる？」  
「ごみをどうする？」



5年 「日本の誇り お米」  
「行事食」  
「心も健康に！」



6年 辻っ子エシカルプロジェクト  
「フードバンク」  
「地産地消の秘密」

【令和2年度】



1年 たべものワールド  
「赤のくに ~すくすくレッド~」  
「きいろのくに ~もりもりイエロー~」  
「みどりのくに ~いきいきグリーン~」



2年 辻っ子元気モリモリ大作戦！  
「旬の野菜のよさを知ろう」  
「学校給食のひみつ」  
「ゆずとり体験を通して学んだこと」



3年 体の中からコロナを予防しよう！  
「朝ごはんは元気のみなもと」  
「食べるもの、食べ方に注目!!」



4年 「腸活するぞー！ ~腸内のヒ・ミツ~！」  
「健康な体づくり  
~さつまいも料理にチャレンジ~」



5年 「1・2月の行事食を知ろう!!」  
 「3・4月の行事食を知ろう!」  
 「5・6月の行事食を食べる由来を知っているかい?」  
 「7・8月の行事食と行事のことについて調べたよ」  
 「9・10月の行事食を知ろう!」  
 「11・12月の行事食を知ろう!!」



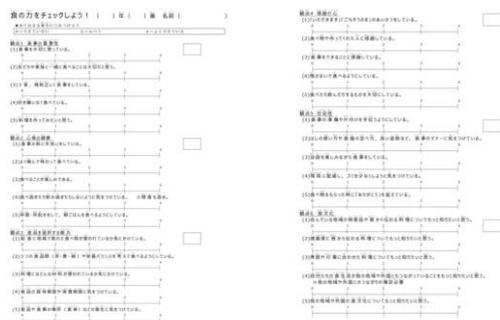
6年 「生活習慣病について」  
 「伝統食の良さ」  
 「高めよう!免疫力」

#### (5) 食育ソフトの活用

本校は、平成29年度文部科学省指定の研究の際に「食の力」を評価するためのソフトの開発に取り組んだ。児童が、食育の学びで身につけた「食の力」をチェックするために6観点30項目の指標を「食の力」チェックシートで年2回、自己評価している。

この結果を、「めざせ!スーパー元気」と名付けたエクセルソフトに入力することで、食の力を総合的に評価し、8種類のイラストとコメントで表すことができるソフトである。

結果を家庭に持って帰ることで、児童の「食の力」を可視化し、家庭と共有することができている。



#### 4 コロナ禍における食育の実践

令和2年度は、重点テーマを「コロナ禍における食育の役割」とし、児童に「コロナ感染予防のために大切なことは何か」というアンケートを行った。その結果、コロナ感染予防に大切なことは「マスク・手洗い消毒・3密を避ける」と認識している児童がほとんどであり、「食育」に関する項目を挙げている児童は5人しかいなかった。

そこで、令和2年度のテーマを【「マスク・手洗い消毒・3密を避ける」だけじゃない!! 『体の中からコロナ感染予防対策』】とし、食事を通して「免疫力を高めること」で、コロナウイルス感染予防対策をしていくことの大切さを学習してきた。

(1) 各学年ごとの内容

【低学年】 ～栄養バランスのとれた食事について考えよう～

- ・ 3つの食品群の役割
- ・ バランスのとれた食事の大切さ
- ・ 野菜の一日の摂取量 350g

【中学年】 ～免疫力を高めるための「腸活」～

- ・ 腸の大切な役割
- ・ 腸内環境を整える食べ物

【高学年】 ～免疫力を高めるためにできること～

- ・ 免疫力を高める栄養素
- ・ 免疫力をつける食事を考えよう

※コロナ感染予防のために、大切なことは何だと思えますか？ 大切だと思うものを書きましょう。

	1	2	3	4	5	6	全校
マスク	8	12	6	10	12	8	56
消毒	4	11	2	9	8	3	37
手洗い・うがい	7	9	5	7	11	5	44
睡眠	1					1	2
早寝早起き・朝ごはん	3			1		1	5
水分補給	1						1
バランスのとれた食事						1	1
野菜を食べる			1				1
よく食べる	3						3
うっかり食べ							4
外出を控える(国外)	1	4	1	4	6		16
買い物は少ない人数で				1			1
そうじをする				1			1
ステイホーム				1			1
お風呂で汚れを落とす			1				1
ほみがき	1						1
ゆっくり休む	1						1

事前アンケートの結果

(2) 実践

① 2年生の実践「野菜大すき！元気もりもり大作戦」

免疫力を高めるためには、栄養バランスのとれた食事が欠かせない。しかし、児童への調査から、野菜が苦手という児童が多いことが分かった。

そこで、生活科の学習「大きくそだて わたしのやさしい」の発展学習として、年間を通して育ててきた多くの野菜の働きや、野菜には旬があると学習することで、野菜のよさを知ることができ、野菜を進んで食べようとする意欲をもってもらいたいと考え、授業実践を進めてきた。

まず、野菜を手で触って当てる『野菜クイズ』をし、野菜に関する興味・関心をさらに高めつつ、育ててきた野菜について振り返った。そして、育ててきた時期を思い出しながら、夏野菜と冬野菜に振り分け、それぞれの働きや、旬の野菜に含まれる栄養素についての学習をした。

この活動を通して、冬野菜には、体をあたためる効果だけでなく、免疫力を高める効果もあるということを知り、給食に入っている冬野菜を進んで探してみたり、旬の野菜を意識して食べてみたいという意欲に繋がったりした。

学習後は、実際に収穫した冬野菜を使って様々な料理を作ったり、学習発表会やポスターセッションで、実践内容を発表したりした。子どもたちからは、「冬野菜を食べると体がぼかぼかになってきた！」や、「苦手だったけれど自分で育てていると好きになった」「旬の野菜をいしきして食べたい」などの感想があり、野菜のよさを実感するとともに、健康な体をつくるために自分でできることを考えるきっかけにもなった。



野菜クイズ



野菜の働きと 旬の野菜のよさ



ポスターセッションでの発表



ほうれん草のおひたし



冬野菜のシチュー

② 4年生の実践「腸内環境を整えよう！」

食事で免疫力を維持・向上するためのポイントの一つとして、「腸内環境を整えること」が挙げられている。「コロナ感染予防のために大切なことは何か」というアンケートから、病気に負けない健康な体をつくるためには、マスクや手洗い消毒、3密を避けることだけでなく、食も大切であるということを知ってほしいと考え、実践した。

腸の働きや免疫力を高める食品について学習するとともに、栄養教諭の話やPTA食育委員会で教えていただいたことをもとに学習を進めてきた。学習をして分かったことは、毎日バランスよく食べること、そして、朝ごはんを食べることで体温が上昇し、免疫力を高められるということである。また、腸内環境を整える発酵食品を摂取することで、さらに免疫力を高めることができると学習し、コロナに負けない健康な体を作ることにつながると実感した。

この活動を通して、今までの生活を見直し、自分たちにできることは何かを考えることができた。知識を実践へと結びつけた一例として、「便の形状チェック」が挙げられる。チェックシートをもとに、毎日の自分の便をチェックすることで、腸内環境の状態が分かり、自分の体調を知ることができた。

このように、保健分野とも関連付けながら教科横断的に学習を進めてきた。また、免疫力を高める食品「さつまいも」を使った調理実習にも取り組んだ。

さつまいもは、免疫力を高めるだけでなく、食物繊維も豊富である。そこで、本校の農園「辻っ子農園」で収穫したさつまいもを使い、様々な料理に挑戦した。保護者への啓発も兼ねてオープンスクールで実施し、その時に作った料理を家庭でも作ってもらうなど、実践の場を広げることができた。



便の形状チェック



調理実習

## 5 成果と今後の課題

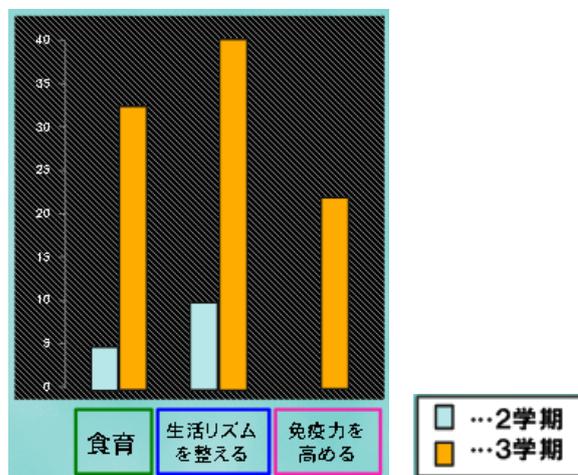
「コロナ感染予防のために大切なことは何か」というアンケートを3学期に再び実施したところ、取り組み前は、「マスク・消毒・3密を避ける」ことと認識している児童がほとんどであり、「食育」に関する項目を挙げている児童は5人しかいなかったのに比べ、取り組み後のアンケートでは、「食育」に関する項目を挙げている児童が、5人から33人に増加した。

また、睡眠や早寝早起き・朝ごはんなど、生活リズムを整える項目を挙げている児童も、9人から39人へ増加した。

さらに、「免疫力アップ」や「腸内環境を整える」「発酵食品を食べる」などと回答した児童が23人おり、取り組み後に、以前までは挙がってこなかった免疫力を高める項目が新たに挙がってきた。このことから、コロナ感染予防には、健康な生活やバランスのとれた食生活をするとともに、体の免疫力を高めることも大切であると、児童自身が実感していると分かった。

これらの活動を通して、食育でできるコロナ感染予防について様々な知識を身に付け、食に関する意欲が高まったことが成果として表れている。

今年度は、昨年度得た知識を生かすことのできる「実践力」を身に付けることを課題とし、取組を進めている。



## 6 おわりに

昨年度末には、児童56人に対して「1年間を振り返って」というアンケートを実施した。そこで、『1年間で頑張ったこと』として、49人もの児童が「給食を残さず食べる」と回答した。また、『できるようになったこと』として、「食育のことにくわしくなった」や「苦手なものが食べられるようになった」と、食育に関する内容を挙げている児童が多数いたことが分かった。このことから、学びを振り返ることで、学びの自覚化が図られていると感じた。

社会の様々な変化が生じる中で、その変化に主体的に向き合って学校・家庭・地域が関わり合い、一人一人の思いや工夫を共有し、今後も、食育の更なる推進や改善を図りながら、「食の力」を身に付けた児童の育成に取り組んでいきたい。



## 低学年における「平仮名・片仮名」の読みの流暢性を目指して

三好教育研究所 研究員 上野 三千代

### 1 はじめに

読みはすべての学習の基礎となる。読みのつまずきは、「読み」という限られた領域だけの問題ではない。例えば、算数の文章問題は、問題文を読んでどのような式にするか考える力が求められる。学習だけでない。駅やバス停で行き先を見る時、お店やインターネットでほしい物を注文する時など、生活の中ではさまざまな場面・場所で必要とされている。

読みの中でも、小学校の低学年で学ぶ平仮名や片仮名の読みにつまずくと、その後の学習に大きく影響する。例えば、新しい漢字を学習した時、平仮名につまずいている児童は、漢字に読み仮名を書いているにもかかわらず正しい読み方が分からない。読み方が分からずに新しい漢字をひたすら練習しても読めるようにならない。私たちがアラビア文字を書き写すことはできても、読み方が分からなければ読めないのと同じである。読めない経験が積み重なると学習に対する意欲を失うことは十分に考えられる。

### 2 研究の目的

平成24年文部科学省の調査によると、通常の学級に在籍する児童生徒の中で学習面で著しい困難を示す推定値は4.5%、学習面と行動面ともに著しい困難を示す推定値は1.6%である。その中でも、2.4%の児童生徒は「読む」又は「書く」に著しい困難を示している。

小学校で勤務をする中で、低学年でのつまずきがその後の学習や行動に影響を及ぼしていると考えられる事例が何度かあった。低学年での読みの困難さが減少すれば、学習面・行動面での困難を示す児童生徒も減少するのではないか。本研究では学習の基盤となる読みの力をつけるために、小学校低学年での平仮名・片仮名の読みの流暢性を高めることを目指して、効果的な教材や指導方法の研究に取り組んだ。

### 3 研究の実践

本研究は、小学校2年生通常の学級（25名）の協力を得て、次のような形で進めた。

- ・文字を読むために必要なことについて調べる。
- ・取り組む前の実態を把握する。
- ・効果的な学習方法を考え、実践する。
- ・順次データを取り、効果を検証し、よりよい方法を考える。

#### (1) 文字を読むために必要なこと

##### ア 文字を読むために必要な脳の機能

読みは、文字の形を捉えて音へ変換する一連のプロセスである。文字を読むためには、脳の中でさまざまな情報の処理が必要である。そのどれか一つにでも支障があると文字を読むことが難しくなる。

(ア) 目を動かして文字をしっかり追う (眼球運動)

- ・文字を順番に目で追う。
- ・視線を見ている場所から別の場所に瞬時に移す。

これらの眼球運動がスムーズでない場合、「読む」ことが難しくなる。

(イ) 文字の形を正しく判別する

文字そのものを正確に読むためには、「め」と「ぬ」、「い」と「り」、「や」と「か」など似た形の文字を別のものとして捉えることが必要になる。これらの違いに気付けないと文字を覚えることが難しくなる。

(ウ) 目で見た文字を音 (ことば) にする

「さかな」という文字を目で捉えられたら、次は、「sa / ka / na」と一文字ずつの音と文字を対応させる必要がある。

(エ) 文字のまとまりを適切に区切る

文を読む時、どこまでがひとまとまりで、どこで区切るかを判断するのが難しくかったり、時間を要したりすると文章を正確に把握することができなくなる。

(オ) 文字の意味を理解する

何を意味しているかがわからないと、声に出して読めても理解できない。自分の記憶の中にそれと関わる知識が蓄積されている必要がある。

イ 文字をまとまりで読むこと

眼球運動の研究 (懸田, 1998) から、文を読む時、眼球は0.2秒から0.25秒停止し、その間に2文字から5文字を一度に読み取ると言われている。このことから、文章を流暢に読むには、文字を1文字ずつ追うのではなく2文字から5文字をまとまりとして一度に読み取ることが必要である。

ウ 音読の発達的变化

小学生のひらがな音読の発達的变化についての研究 (小林ら, 2010) で、意味のある単語と単文の音読は4年生以降の変化はあまり見られないという結果であった。このことから、意味のある単語や単文の音読は1~3年で発達すると考えられている。また、1年生の音読に要した時間は他の学年に比べてばらつきがあった。その要因の一つに語彙力の個人差が影響していると考えられている。

これらのことから、読みの流暢性を高めるには、低学年で「語彙を増やす」「まとまりとして読み取れる言葉を増やす」ことが重要であると考え、研究に取り組んだ。

(2) アセスメントを行い、実態を把握する

実践に入る前に、次のデータをとった。

- ・MIM-PMによる読みのアセスメントテスト
- ・音読 (範読を一度聞き、練習はしていない段階で)
- ・アンケート

ア 多層指導モデルMIMについて

多層指導モデルMIMは、通常の学級において異なる学力層の子どものニーズに対応した指導支援をしていくことを考えたものである。子どもが学習につまずく前に、また、つまずきが深化する前に指導・支援をすることを目指している。



イ MIM-PM 1 回目の結果（4 月）

MIM-PM の総合点（テスト 1 とテスト 2 の合計）は次のような結果だった。

- ・同時期平均と 7.7 点の差がある。
- ・3rd ステージの児童が 4 割いる。

3rd ステージの児童は、文字をまとまりとして読めていないことが考えられた。また、次のような児童が数名いた。

- ・やり方を理解できていない（線の引き方など）。
- ・似た字を間違える（「ば」と「ぼ」など）。
- ・特殊音節を正確に理解できていない（特に長音と拗音）。

		テスト総合点
学級平均		15.9
同時期平均		23.6
同時期平均との差		7.7
ステージ 人数	1stステージ	7
	2ndステージ	7
	3rdステージ	11

ウ 音読と MIM-PM について

読んだ物：国語の教科書・物語文

条件：範読を聞いた後、音読の宿題はしていない

流暢性の基準：A すらすら読み、ほぼ間違いがない

B つまらず（ほぼ）読む・すらすら読むが間違いがある

C 時どきつまる・間違えることが多い

D つまりながら読む

E 一文字ずつ読む

流暢に読む児童は MIM-PM の総合点が 1st ステージ・2nd ステージを 9 割近く占めており、反対につまりながら読む児童は MIM-PM の総合点が全員 3rd ステージだった。音読の流暢性は MIM-PM の結果と深く関わっていると考えられた。

		MIM-PMの総合点 4月			
		1stス テージ	2ndス テージ	3rdス テージ	計
流 暢 性	A	5	3	1	9
	B	2	2	5	9
	C	0	2	1	3
	D	0	0	4	4
	E	0	0	0	0
	計	7	7	11	25

エ アンケートについて

- ・音読が「きらい」を選択した児童は、国語に対しても「きらい・ふつう」を選択していた。
- ・アンケートで文字を読むことが「きらい」「ふつう」を選択した児童（13名）は、初見に近い音読をした時、声が小さい（5名）、勝手読みをする（4名）、つまりながら読む（5名）などの傾向がみられた。

	こくごはす きですか。	音どくは すきです か。	どくよは すきです か。	文字を書 くことはす きですか。	文字を読 むのはす きですか。
とてもす き	6	7	15	8	5
す き	5	3	6	6	7
ふ つ う	13	11	4	9	11
き らい	1	4	0	2	2

(3) 教材を作成

ア イラストと文字を組み合わせたスライドの利用

アンケートから音読や文字を読むことよりも、読書が好きな児童が多いことがわかった。低学年は絵本を読む児童が多い。絵本は、イラストでイメージしながら読むことができる。イラストと文字を組み合わせて学習することで、次のような効果が考えられる。

- ・文字へのハードルを下げるができる。
- ・文字とイメージを結びつけて記憶できるので言葉が自分のものになりやすい。
- ・文字だけで記憶したものより、思い出す手がかりがある。
- ・1文字ずつ読むのではなく、単語としてまとまりで読みやすくなる。

そこで、パワーポイントを使って、①「文字とイラスト」と②「文字のみ」の2種類のスライドを作成した。①「文字とイラスト」のスライドで理解できる言葉を増やし、②「文字のみ」のスライドを使ってまとめりとして読める言葉を増やすことができると考えた。

①文字とイラスト

②文字のみ



イ 長音と拗音の規則の指導

1回目のMIM-PMのテストで、長音・拗音の規則が正しく入っていない児童がいた。

(間違いの例)・「おとうと」→「おとおと」

・「しょくじ」→「しゃくじ」

・「エスカレーター」→「エスカーレーター」など

MIMの指導を参考にして規則を確認するスライドを作成した。

(ア) 指導の流れ

- ①正しい書き方を選択させる問題
- ②規則の確認 (全体)
- ③プリントで確認 (個人)

(イ) 指導のポイント

○視覚化

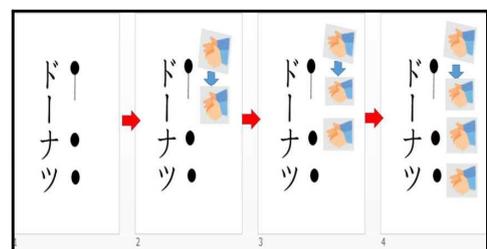
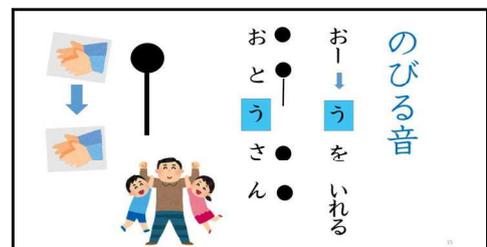
特殊音節の規則を明確に提示することを目的に、音のイメージを視覚的に、簡略化して捉えられるよう記号で音の特徴を表したスライドを作成した。

○動作化

動作化することで目に見えない音の特徴を具体的に分かるようにすることができる。文字と音と動作の対応を目で見て理解できるようにするために、パワーポイントのアニメーションを使ったスライドを作成した。

○学習したことを確認するプリント

イラストと合う正しい書き方を選択するプリントで学習したことの定着を図った。



(4) MIM-PM の結果を分析し、教材を作成

ア MIM-PM 2回目 (5月)

(ア) 結果

MIM-PM の総合点を前回と比較すると、次のような伸びがみられた。

- ・平均点 8.1点伸びた
- ・1st ステージ 10人増えた
- ・3rd ステージ 5人減った
- ・同時期の平均との差 4.6点縮まった

		MIM-PM総合点		
		4月	5月	前回との差
学級平均		15.9	24.0	8.1
同時期平均		23.6	27.2	3.5
同時期平均との差		7.7	3.1	(4.6)
ステージ人数	1stステージ	7	17	10
	2ndステージ	7	2	(5)
	3rdステージ	11	6	(5)

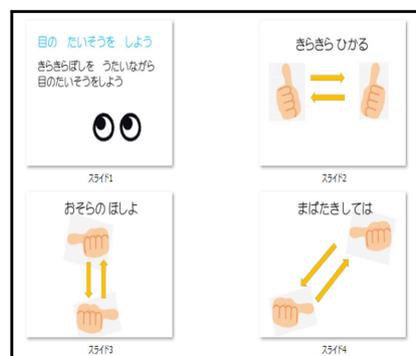
(イ) 5月の MIM-PM の結果について

5月は、イラストと文字の入ったスライドで学習した言葉がアセスメントに出たことも要因として考えられるが、イラストと文字を結び付けた教材を使って学習したことで、まとまりとして読むことが出来る言葉が増えたと考えられた。

(ウ) 眼球運動

2回目の MIM-PM の総合点で3割の児童は10点以上の伸びが見られた。しかし2割の児童は5点以下の伸びだった。

担任との話し合いの中で、伸びが少ない児童は読解問題に取り組んでいても、キーワードに印を入れることができていないという話だった。読むために必要な力の一つである目の使い方に課題があることが考えられるので、眼球運動を時々取り入れてもらった。



イ MIM-PM 3回目 (7月)

(ア) 結果

5月と比較すると次のことがみられた。

- ・平均点が下がった。
- ・1st ステージの人数が減って、3rd ステージが増えた。

		MIM-PM総合点			
		4月	5月	7月	前回との差
学級平均		15.9	24.0	21.2	(2.8)
同時期平均		23.6	27.2	30.7	3.5
同時期平均との差		7.7	3.1	9.5	6.3
ステージ人数	1stステージ	7	17	9	(8)
	2ndステージ	7	2	6	4
	3rdステージ	11	6	10	4

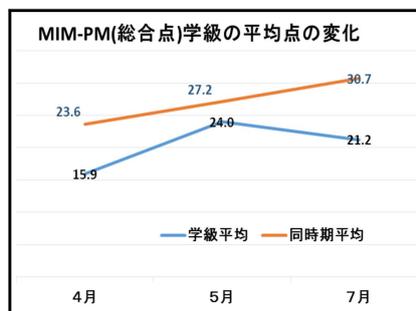
(イ) 7月 MIM-PM の結果から考えられること

5月はスライドを使って練習をした言葉がテストに出ていたが、7月の MIM-PM のテストでは練習していない言葉が多く出た。このことから、

- ・学習した言葉は、定着している。
- ・知らない言葉、聞き慣れない言葉、読み慣れない言葉は、読むのに時間がかかる。

ということが考えられた。そこで、2学期からの取り組みとして次の2つを提案した。

- ①学級全体でスライドを利用した指導 (聞く+声に出す) の継続
- ②個別に学習できる三択問題を利用



## ウ 2学期の取り組み

### (ア) MIM-PM の形式に慣れる活動

MIM-PM のアセスメントテストは1分という限られた時間で行わなくてはならないので、言葉をまとまりとして読むことだけでなく、形式に慣れていないと数をこなすことは難しい。そこで担任はテストの形に慣れる練習を取り入れた。

- ①目標の回答数を決める②1分間する③目標に達成できたか確認する④もう1分間する
- この練習で、児童は形式に慣れるだけでなく、数値目標をもつことで、速さを意識するようになり、それがまとまりとして読むことにもつながったと思われる。

### (イ) 個別に学習できるツール(三択問題)

3rd ステージと1st ステージの児童が同じスライドを繰り返し読む活動をする時、

- ・1st ステージの児童は、理解できていることを何度も繰り返すのはあきる。
  - ・3rd ステージの児童は、読めるようになる前に次に進み、定着しない可能性がある。
- そこで、自分のペースで進めることができる教材を作成し、取り組んでもらった。



教材は、Google フォーム（Google が提供しているフォーム作成ツール）を使用し、絵を見て3つの言葉から正しい言葉を選択する「三択問題」を作成した。

1つのフォームは10問。「ひらがな」「つまる音（促音）」「のばす音（長音）」「ねじれる音（拗音）」「ねじれてのばす音（拗長音）」「カタカナ」のフォームをそれぞれ5つずつ、全部で30個のフォームを作成した。問題の作成では、MIM-PM での間違いの傾向を取り入れるようにした。

（間違いの傾向）

- ・小さく書く字を大きく書く（例：きしや、ホツトケーキ）
- ・形がよく似た字（例：ボールペン、ウンピース）
- ・文字の順番（かるた→かたる、たいこ→たこい）
- ・ひらがなの長音がない（ぎゅにゅ・そつぎよしき）
- ・カタカナの長音（ケエキ・アイスクリーム・エスカレエタア）
- ・音がよく似た字を間違えて覚えている（例：じれんしゃ、カデーライス）
- ・小さい「っ」を書き忘れる（例：ビスケット、かけこ、はらば、しょき）
- ・小さい「っ」の順番が違う（例：ほべった、ロツボト、はっらば）
- ・「お」とのばす長音（例：まほお、てんとおむし、こうり、ほおき）

### だいもん



- ボタン
- ボタン
- ポンタ

(ウ) 担任と情報を共有し支援・指導に生かす

○フォームの結果を共有

Google フォームで作成したテストは、回答をスプレッドシート（Google 社が提供している表計算ソフト）で作成できる。

- ・ 個別の結果（スコアと選択した言葉）
- ・ 個別の取り組んだ回数
- ・ 学級の平均点
- ・ 間違いの多い言葉
- ・ 間違いの傾向

2年 のばす音		10月26日 (1人27番) 10月27日 (30人)				
出席番号	スコア	タイムスタンプ	だい1もん	だい2もん	だい3もん	だい4もん
10 / 10	2021/10/27 13:44:17	さとう	るうか	おじいさん	たいそう	
10 / 10	2021/10/27 13:42:11	さとう	るうか	おじいさん	たいそう	
8 / 10	2021/10/27 13:43:35	さとう	るうか	おじいさん	たいそう	
6 / 10	2021/10/27 13:42:21	さとお	るおか	おじいさん	たいそう	
6 / 10	2021/10/27 13:43:46	さとお	るうか	おじいさん	たいそう	
6 / 10	2021/10/26 9:34:47	さとう	るうか	おじいさん	たいそう	
8 / 10	2021/10/27 13:43:40	さとう	るおか	おじいさん	たいそう	
10 / 10	2021/10/27 13:42:15	さとう	るうか	おじいさん	たいそう	
9 / 10	2021/10/27 13:42:33	さとう	るうか	おじいさん	たいそう	
3 / 10	2021/10/27 13:43:07	さとお	るおか	おじいさん	たいそう	
4 / 10	2021/10/27 13:44:09	さとお	るうか	おじいさん	たいそう	
平均	8.83 / 10	間違いの数	3	5	0	4

などが一目でわかるように出席番号順に

並べ、間違っている言葉に色を入れ、間違いの数を記載したシートを作成し、担任と共有した。

○フィードバックするスライドを作成

9月から、三択問題に取り組んでもらった。（ねじれてのばす音は、子どものタブレットでうまく作動しなかったためしていない。）のばす音やカタカナの課題で間違っている児童が数名いた。

のばす音の課題を2回取り組んだ児童の中には2つのパターンが見られた。

- A 1回目の間違いを確認して2回目は正しい答えを選択できた児童
- B 同じ間違いを繰り返す児童

A が理想的と思われる。B の同じ間違いを繰り返す児童の中に、1回目は正しく選択できていたのに、2回目は間違えている児童がいた。次のようなことが原因として考えられた。

- ・ 間違いを確認していない
- ・ 確認しても忘れる
- ・ 違いがわかりにくい

同じ間違いを繰り返す児童は、MIM-PM の結果からも配慮が必要と思われる児童であった。そこで、スコアを表示した画面にフィードバックを表示するようにした。

・ 正解の時は、「せいかい(^.^)」が出る。

・ 不正解の時は、正解の言葉を表示し、フィードバック用のスライドをリンクさせた。

そのリンクを開くと、記憶に残りやすくするためイラストと文字を入れたスライドが出るようにした。違いがわかりにくい児童への対応として、重要と思うところは色を変えた。

ひらがな・カタカナ①の結果

ひらがな	月・日	①
平均		9月16日
		9.96
つまる音	月・日	①
平均		9月10日
		10.00
のばす音	月・日	①
平均		9月14日
		8.96
ねじれる音	月・日	①
平均		9月14日
		9.75
カタカナ	月・日	①
平均		9月9日
		9.71

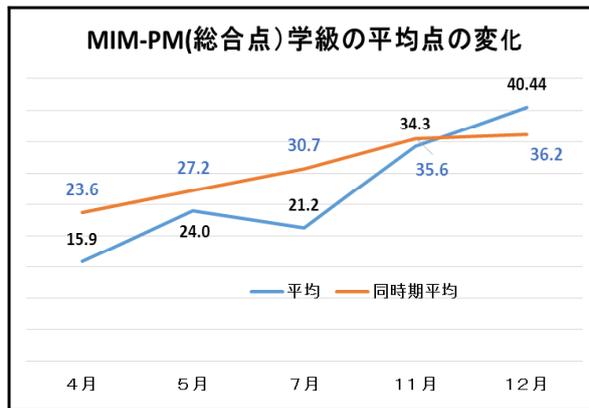
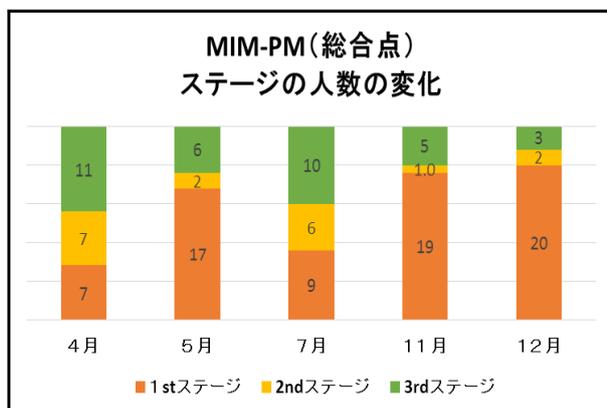




## 4 結果と考察

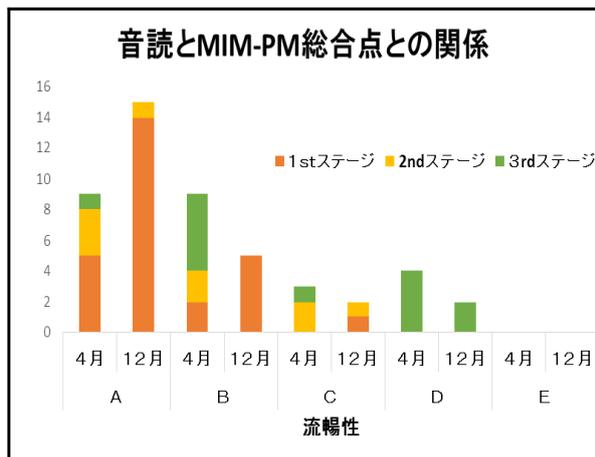
### (1) 12月のMIM-PMの結果から

	テスト総合点					テスト①正答数					テスト②正答数					
	4月	5月	7月	11月	12月	4月	5月	7月	11月	12月	4月	5月	7月	11月	12月	
ステージ 人数	1stステージ	7	17	9	19	20	7	17	7	19	20	5	13	10	18	16
	2ndステージ	7	2	6	1.0	2	9	3	8	0	8	5	3	3	6	
	3rdステージ	11	6	10	5	3	9	5	10	6	5	12	7	12	4	3
平均	15.9	24.0	21.2	34.3	40.44	9.8	14.5	11.8	18.9	24.28	6.1	9.6	9.4	15.4	16.16	
同時期平均	23.6	27.2	30.7	35.6	36.2	13.2	16.5	16.2	19.3	19.9	10.5	10.7	14.5	16.2	16.3	
同時期平均との差	-7.7	-3.1	-9.5	-1.2	4.3	-3.3	-2.0	-4.4	-0.5	4.4	-4.4	-1.1	-5.1	-0.8	-0.1	



- ・総合点が同時期の平均と比べて、4.3点上回った。
- ・テスト①の平均点が高い。正しい表記を素早く見つける力をつけた児童が増えた。
- ・4月総合点が3rdステージだった児童のうち6人が1stステージへ、2人が2ndステージへあがり、2ndステージだった児童のうち7人が1stステージへあがった。
- ・12月3rdステージの児童3人も、担任が個別に復習する機会を作ったことで4月より10点以上伸びていた。

### (2) 音読とMIM-PMの関係



流暢性について4月と同じ基準で評価した。MIM-PM総合点で1stステージの児童が増加するとともに、流暢性が高まった児童が増えた。流暢性が4月・12月ともにAだった児童(8人)と12月に上がった児童(9人)の、MIM-PM総合点の変化(4月→12月)

- 1stステージ→1stステージ 5人
- 2ndステージ→1stステージ 5人
- 3rdステージ→1stステージ 6人
- 2ndステージ 1人

学級では、音読や漢字の学習について次のような取り組みを続けてきた。

#### ①音読について

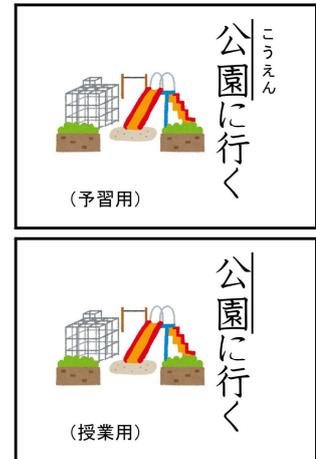
授業中は、教師との交互読みや一斉読み、もしくは範囲を指定して読めた人から座るなどいろいろな音読を取り入れた。読みの支援が必要な児童に対しては、音読補助シート(ラミネートしたシートに直線を引いてどこを読むかを分かりやすくした物)を渡した。慣れてくると自分で指なぞりしながら読めるようになってきた。

宿題では、教科書のページを指定(見開き1ページくらい)したり、イラストつき漢字プリントや漢字ドリルの読みなどを取り入れたりした。音読カードは、保護者と教師が確認する欄を設けて児童の意欲を継続する工夫をした。保護者によってはコメントを記入してくださる方もいた。

### ②漢字の読みについて

単元に入る前に、音読の宿題としてイラストつき漢字プリントの読みを取り入れた。長期の休みは、次の学期に学ぶ漢字の予習として、イラストつき漢字プリントの読みを宿題に出した。

国語の授業では、最初に漢字読みタイムを設定して、イラスト入り漢字のパワーポイントのスライドを順番に読んだり、個人→全体と交互に読んだりした。漢字の読みに慣れてきたら、ゲーム的な要素やご褒美を取り入れることで児童は楽しんで漢字の学習に取り組むことができた。



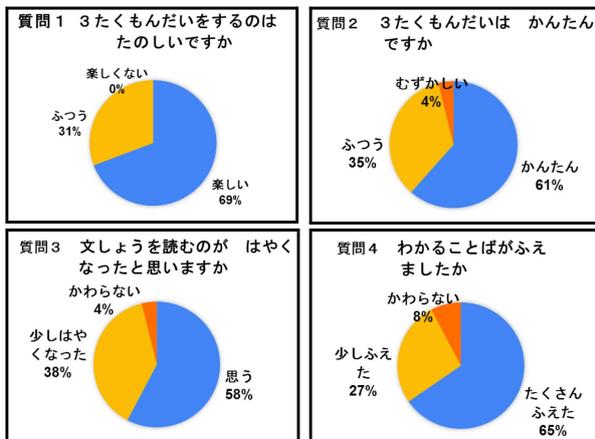
### ③漢字の書きについて

読みがスムーズになったら、10問漢字書きテストを取り入れた。はじめは、部分ヒントを多めに板書して、だんだん減らすと支援の必要な児童も書けるようになってきた。

これらのきめ細やかな支援・指導が児童の音読の力を上げてきたと考えられる。

## (3) アンケートの結果

### ア 三択問題のアンケート

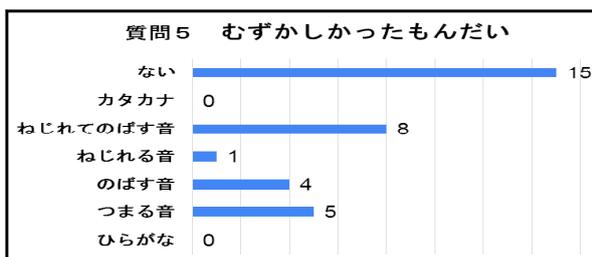


質問1では、三択問題を楽しく取り組んだ児童が7割近くおり、楽しくないと感じている児童はいなかった。質問2では、難しいと感じている児童が1名いたが、ほとんどの児童は難しいと感じていないので、児童にとって取り組みやすい課題であったと思われる。

質問3・4の音読の流暢性や語彙については、MIM-PMの総合点が4月2nd・3rdステージで、12月1stステージに上がった13名が「読むのがはやくなった」11名が「わかる言葉がふえた」と感じている。12月MIM-PM総合点が、2ndステージ・3rdステージの5名全員が「読むのがはやくなった」「言葉がふえた」と感じており、流暢性や語彙について自信をつけてきていると思われる。

MIM-PMのステージとアンケートの結果

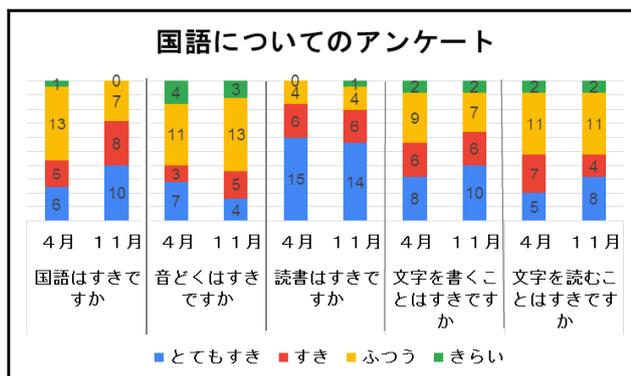
	しつもん3			しつもん4		
	はやくなった	少しはやくなった	かわらない	たくさんふえた	すこしふえた	かわらない
4月→12月のMIMのステージ	3	2	0	3	2	0
3rdステージ→3rdステージ	3	2	0	3	2	0
3rdステージ→2ndステージ	3	2	0	3	2	0
3rdステージ→1stステージ	7	6	0	8	3	2
2ndステージ→1stステージ	7	6	0	8	3	2
1stステージ→1stステージ	4	2	1	5	2	0



質問5の難しかった問題について、「ない」と答えた児童は12月のMIM-PM総合点で1stステージだった。3rdステージの児童は難しいと感じる問題があり、ねじれてのばす音・つまる音・のばす音のいずれか、あるいは複数を選択していた。

イ 国語についてのアンケート（4月と11月末の比較）

「国語がとても好き・好き」が増え、「きらい」が0になった。「文字を読むこと・文字を書くことがとても好き」の人数が増え、文字を意欲的に読んだり書いたりする児童が増えている。また、「音読がきらい」の人数が減った。学級での、継続的な取り組みによって、文字を読む・書くことに対する抵抗が減ってきた



と考えられる。しかし、「音読がとても好き」も少し減っている。2年生になり読む量が増えたこと、学習内容の難易度がだんだん上がってきたことなどが関係していると思われる。

(4) 考察

MIM-PM の結果から、平仮名・片仮名で書かれた言葉をまとまりで読む力がついてきたと思われる。イラストと文字を組み合わせたスライドは350枚作成し、三択問題で確認できるような形にした。語彙が少ない児童には新しい言葉に触れる機会が得られたのではないかと思う。

三択問題についての利点や欠点についてまとめた。

	利 点	欠 点
児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 択なので取り組みやすい。</li> <li>・ 問題数が 10 問なので負担が少ない。</li> <li>・ すぐに採点されるので意欲につながる。</li> <li>・ 何回でも繰り返すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タブレットの扱いに慣れるまでに時間がかかる。</li> <li>・ 採点后、回答の確認をしないと同じ間違いを繰り返す。</li> <li>・ フィードバック用のスライドはリンクをかけているので時間がかかる。</li> </ul>
指導者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷の手間が省ける。</li> <li>・ フォーム上で採点されるので、採点する必要がない。</li> <li>・ 担任は結果をフォーム上で確認できる。 学級の平均・間違いの傾向 個々のテスト結果・間違った問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットワークの不具合が時々起こる。</li> <li>・ 一斉にするので、Teams に送ったファイルの中から指定したファイルを選択できているかの確認が難しい。</li> </ul>

1年で学習する平仮名・片仮名を2年生で個別に指導をするための時間を確保することは難しい面があるが、三択問題はフォーム上で採点され、フィードバックすることで間違いを確認し、修正することができるので個別に近い活動ができると思われる。

ただ、三択問題で同じ間違いを繰り返す児童がいたことから、一度間違えて覚えると修正することが難しいことが推測される。平仮名・片仮名を学びはじめる1年生で取り組むとより効果があると考えられる。

## 5 おわりに

今回の研究では「平仮名・片仮名」の読みの流暢性を高めることに取り組んだ。イラストと言葉を組み合わせたスライドでまとまりとして読める言葉を増やし、正しい表記を確認する三択問題で一人一人の児童の理解度を把握し指導に生かすことで、平仮名・片仮名の読みの力をつけることができたと思う。

音読の流暢性については、2年生は多くの漢字を学ぶので、平仮名・片仮名だけでなく漢字の読みも重要である。協力していただいた学級の漢字の学習は、読めるようにしてから書く指導へと進めていた。また、イラストと組み合わせたり、ヒントを用いたりして、記憶や想起のための支援を工夫していた。そして、繰り返し練習し、こまめなフィードバックをすることで定着を図っていた。読みの流暢性を高めるのは簡単ではない。異なる学力の児童が在籍する通常の学級では、教師の地道な支援や指導が必要であることを改めて感じた。

普段の学習でつまずきが見られる児童が、三択問題で満点を取った時に「よっしゃあ！！」と喜んでいるという話を担任がしてくれた。読みの流暢性を高めることはもちろんであるが、「やればできる」という自信をもってほしいという願いがあったのでとてもうれしく感じた。これからもそのような場面を増やすことができる教材や指導の方法を考えていきたい。

今回の研究にあたり、三択問題の作成や校内で活用するための支援をしていただいた先生方、そして協力していただいた学級、担任の先生に感謝の意を表す。

## 6 参考文献・URL

- ・海津亜希子編著「多層指導モデル MIM『読みのアセスメント・指導パッケージ』ガイドブック」, 学研教育みらい 2010
- ・梅田真理編著「特別支援教育をサポートする 読み・書き・計算指導事例集」株式会社ナツメ社 2016
- ・小池敏英, 雲井未歆編著「遊び活用型 読み書き支援プログラム」図書文化社 2013
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」2012  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1328729.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1328729.htm)
- ・小林朋佳, 稲垣真澄, 軍司敦子, 矢田部清美, 加我牧子, 後藤隆章, 小池敏英, 若宮英司, 小枝達也「学童におけるひらがな音読の発達的变化—ひらがな単音, 単語, 単文速読課題を用いて—」脳と発達 2010 ; 42 : 15-21. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/ojjsn/42/1/42\\_15/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/ojjsn/42/1/42_15/_pdf)
- ・懸田孝一「読書時の単語認知過程—眼球運動を指標とした研究の概観」北海道大學文學部紀要 1998;46(3):155-192 <http://hdl.handle.net/2115/33710>

## プログラミング教育の普及と指導方法の探究

### ～2年間の実践研究を終えて～

三好教育研究所 研究員 橋本 早弥香

#### 1 はじめに

小学校では、昨年度から全ての教育活動で各学校の教育目標や児童の実情に応じて、プログラミング教育のねらいを踏まえた実践が行われている。

昨年度本研究所に赴任した私は、ビジュアル型プログラミング言語 **Viscuit** と **Scratch** を使用したプログラミング教育の研究に取り組んだ。研究では、三好郡市教職員グループウェア「ミライム」の掲示板で **Viscuit** と **Scratch** を使用した授業の紹介や三好郡市の小学校で授業を行った。その結果、「授業準備や指導に役立った。プログラミング教育の授業の紹介を継続して欲しい。」という先生方の声や生き生きと楽しそうにプログラミングに取り組む児童の姿を目にし、研究の成果を感じた。一方で、PCやプログラミング操作のトラブル対応や児童のプログラミングの理解度の差、作品完成までの時間差に対する指導に課題を感じた。

そこで、これらの課題を解決する指導方法や新たなプログラミング教材を活用した授業について研究したいと考え、今年度も引き続きプログラミング教育の研究に取り組んだ。

#### 2 研究の目的

プログラミング教育導入から1年が経過したとはいえ、操作や指導方法・授業実践例の紹介を求める声はまだ多い。そこで本研究では、これまでの自らの教育実践とプログラミング教育を組み合わせる教材研究や授業実践を行うことで、プログラミング教育の実践場面を広げ、指導の中で生じる悩みや課題解決の一助となることを目的とする。

#### 3 研究の方法

三好郡市は東みよし町と三好市からなり、三好郡市内で教員の異動が多い。異動後も同じ教材を扱うことでこれまでの経験を生かした指導ができると考え、東みよし町は全小学校で三好市は数校で導入されているプログラミング教材 **micro:bit** の研究に取り組んだ。本研究所でも **micro:bit** を25個購入し、貸し出しを行った。また、「ミライム」の掲示板で **micro:bit** を使用した授業紹介を掲載したり、学校へ出向いて授業実践や授業サポートに取り組んだりした。

#### 4 研究の内容

##### (1) プログラミング教育の普及

##### ① 「ミライム」の掲示板での紹介

**micro:bit** を使用したプログラム作成の手順を画像や補足説明を加えながら説明し、関連する教科・単元も合わせて紹介した。

【掲載内容】

	題材名	プログラミング内容	関連教科・単元
1	micro:bit の活用手順	アプリのインストール方法やプログラム作成手順を説明する。	
2	好きな模様を光らせよう	内蔵されているアイコン（ハートや顔文字等）を表示する。	
3	電光掲示板を作ろう	英語，ローマ字，カタカナのいずれかで文字を入力し，電光掲示板のように表示する。	
4	明るさを調べよう	センサーで感知した明るさを数値で表示する。 小3 理科 「太陽の光を調べよう」 小5 理科 「植物の発芽と成長」 小6 理科 「電気と私たちの暮らし」 小5 家庭科「暖かく快適に過ごす住まい方」	
5	歩数計を作ろう	腕を下ろす度に表示する数が増え，歩数を計測する。 小5 算数 「平均とその利用」	
6	腹筋カウンターを作ろう	上体が起き上がる度に表示する数が増え，腹筋回数を計測する。 全学年 体育「新体力テスト」	
7	方位磁針を作ろう	磁力を感知し，方角を表示する。 小3 社会 「わたしたちのまちと市」 小4 理科 「夏の星・月や星の見え方・冬の星」	
8	グループで音楽を演奏しよう	A・B ボタンに音を1音ずつプログラミングし，トーンチャイム演奏のように複数の micro:bit を使用し，グループで旋律を演奏する。	
9	じゃんけんをしよう	揺らすとランダムにグー・チョキ・パーを表示する。	
10	通電テスターを作ろう	クリップ付き導線を micro:bit の端子部分に挟み，接続先の物が明かりを通すかどうかを判定する。判定結果を○×で表示する。 小3 理科 「明かりをつけよう」	
11	旋律をつくろう	内蔵された音楽機能を使い，旋律を演奏する。	
12	電気を有効に使おう	抵抗付き LED を使用し，A・B ボタンで点灯・消灯をコントロールしたり，指定した暗さの時に自動点灯したりする。 小6 理科 「電気と私たちの暮らし」	
13	磁力を調べよう	磁力を感知し，数値に応じて指定した表示方法で磁力の大きさを表示する。 小3 理科 「じしゃくにつけよう」 小5 理科 「電流がうみ出す力」	
14	温度を調べよう	温度を感知し，数値で表示する。 小4 理科 「物のあたたまり方」	
15	Scratch との接続手順	内蔵された Bluetooth を使用し，Scratch と接続する手順を説明する。	
16	Scratch とつないで迷路を作ろう	Scratch と接続し，迷路を作成する。micro:bit をコントローラとして使用できるようにプログラミングする。	

② 夏季研修

三好郡市小教研情報部会夏季研修にて実践発表を行った。2学期以降の単元やお楽しみ会で取り組める内容を中心に紹介した。参加者からは、「実践発表に刺激を受けた。これから取り組める内容だったので、やってみようと思う。」という感想があった。

(スライド一部)



③ 出前授業・授業サポート

三好郡市小学校へ出前授業と授業サポートの案内を送付した。プログラミングの授業を具体的にイメージできるように、年間指導計画案も添付した(資料1, 2, 3)。

出前授業はプログラミング教育の導入授業としての依頼が多く、教員も未経験または経験が少ない場合が多かった。そこで、プログラミングを知ってもらうことや授業実践につなげることを意識して事前打ち合わせを行った。まず操作説明を行い、続いて児童が出前授業で作成するプログラミングと一緒に作成した。授業内容によっては、出前授業までに授業で扱うプログラミングを作成してもらうこともあった。出前授業ではT2として指導していただき、T1・T2の2人体制で授業を進めた。そのため、PCやプログラミング操作のトラブル等にすぐ対応することもできた。

(資料1)

(資料2)

令和3年4月14日

三好郡市各小学校長様  
三好郡市各小学校情報教育ご担当者様

三好教育研究所研究員 橋本早弥香

プログラミング教育の出前授業と授業サポートについて (ご案内)

春暖の候、貴校におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、私は昨年度より三好教育研究所にてプログラミング教育の研究に取り組んでおります。昨年度は、Viscuit (ビスケット) と Scratch (スクラッチ) を活用した教材研究を行い、「ミライム」掲示板に教材の掲載をしました (公開は令和4年3月末まで)。また、5校の小学校で授業を実施し、多くのことを学ばせていただきました。今年度は、micro:bit(マイクロビット)を活用した教材研究にも取り組む予定です。

添付資料は、昨年度の研究とインターネット上で紹介されている micro:bit の活用事例を元に作成しています。添付資料の内容に限らず、プログラミング教育の授業や授業サポートの機会がございましたら、下記までご連絡下さい。なお、本活動は研究の一環のため、年度末発行の三好教育研究所「研究紀要」に掲載する場合がございます。その際は、児童・生徒の個人情報の保護について十分配慮し、個人が特定されることはありません。

また、今年度より三好教育研究所にて micro:bit を貸出してあります。いつでもご利用下さい。

プログラミング教育 出前授業・授業サポート 申込書

学校名	( ) 小学校
担当者氏名	
学年・組・人数	年 組 ( ) 名
教材	アリロ マイクロビット ビスケット スクラッチ
形態	T1 T2 教員研修 その他 ( )
内容	
希望日時	第1 月 日 ( ) : ~ : 第2 月 日 ( ) : ~ : 第3 月 日 ( ) : ~ :
打合せ希望日時	第1 月 日 ( ) : ~ : 第2 月 日 ( ) : ~ : 第3 月 日 ( ) : ~ :
その他	

※ 実施日2週間前までにお申し込みください。

※ 内容は「ミライム」電子掲示板の Scratch・Viscuit・マイクロビットの記事を参考にいただければ幸いです。

※ 派遣依頼は不要です。

プログラミング教育 年間指導計画 (案)【小学1～3年生】

学年	1年	2年	3年																																																									
	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Visucuit 簡単な絵のプログラム作成</li> <li>•alilo 付属のカードを使用し、ロボットプログラミングに親しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Visucuit 操作や動きのレベルを上げて作成</li> <li>•alilo 自作の絵の絵の使用や、ボタン操作でコントロールする。</li> <li>•micro:bit 簡単なアイコンプログラム作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Visucuit/micro:bit 主要教科の内容で作成</li> <li>•micro:bit 他教科と関連したプログラム作成</li> <li>•Scratch 単語や単文の入力と簡単操作でプレゼン作成</li> </ul>																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>教科</th> <th>単元(題材)</th> <th>利用環境</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活</td> <td>じふんのまあくをかこう</td> <td>Visucuit</td> </tr> <tr> <td>生活</td> <td>あきとなかよし</td> <td>Visucuit</td> </tr> <tr> <td>生活</td> <td>ふゆとなかよし</td> <td>Visucuit</td> </tr> </tbody> </table>	教科	単元(題材)	利用環境	生活	じふんのまあくをかこう	Visucuit	生活	あきとなかよし	Visucuit	生活	ふゆとなかよし	Visucuit	<table border="1"> <thead> <tr> <th>教科</th> <th>単元(題材)</th> <th>利用環境</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図工</td> <td>海の中をかこう</td> <td>Visucuit</td> </tr> <tr> <td>図工</td> <td>まどからこんいちほ</td> <td>Visucuit</td> </tr> <tr> <td>特活</td> <td>町たんけん</td> <td>alilo</td> </tr> <tr> <td>図工</td> <td>火花を打ち上げよう</td> <td>Visucuit</td> </tr> <tr> <td>特活</td> <td>好きな模様を光らせよう</td> <td>micro:bit</td> </tr> <tr> <td>特活</td> <td>思い出すごろくを作ろう</td> <td>alilo</td> </tr> </tbody> </table>	教科	単元(題材)	利用環境	図工	海の中をかこう	Visucuit	図工	まどからこんいちほ	Visucuit	特活	町たんけん	alilo	図工	火花を打ち上げよう	Visucuit	特活	好きな模様を光らせよう	micro:bit	特活	思い出すごろくを作ろう	alilo	<table border="1"> <thead> <tr> <th>教科</th> <th>単元(題材)</th> <th>利用環境</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理科</td> <td>チョウを育てよう</td> <td>Visucuit</td> </tr> <tr> <td>特活</td> <td>方位磁針を作ろう(社会:わたしたちのまちと市)</td> <td>micro:bit</td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>ローマ字</td> <td>Visucuit micro:bit</td> </tr> <tr> <td>特活</td> <td>明るさを調べよう(理科:太陽の光)</td> <td>micro:bit</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>町たんけん</td> <td>Scratch</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>かわる道具とくらし</td> <td>Visucuit</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>明かりをつけよう</td> <td>Visucuit</td> </tr> </tbody> </table>	教科	単元(題材)	利用環境	理科	チョウを育てよう	Visucuit	特活	方位磁針を作ろう(社会:わたしたちのまちと市)	micro:bit	国語	ローマ字	Visucuit micro:bit	特活	明るさを調べよう(理科:太陽の光)	micro:bit	総合	町たんけん	Scratch	社会	かわる道具とくらし	Visucuit	理科	明かりをつけよう	Visucuit
教科	単元(題材)	利用環境																																																										
生活	じふんのまあくをかこう	Visucuit																																																										
生活	あきとなかよし	Visucuit																																																										
生活	ふゆとなかよし	Visucuit																																																										
教科	単元(題材)	利用環境																																																										
図工	海の中をかこう	Visucuit																																																										
図工	まどからこんいちほ	Visucuit																																																										
特活	町たんけん	alilo																																																										
図工	火花を打ち上げよう	Visucuit																																																										
特活	好きな模様を光らせよう	micro:bit																																																										
特活	思い出すごろくを作ろう	alilo																																																										
教科	単元(題材)	利用環境																																																										
理科	チョウを育てよう	Visucuit																																																										
特活	方位磁針を作ろう(社会:わたしたちのまちと市)	micro:bit																																																										
国語	ローマ字	Visucuit micro:bit																																																										
特活	明るさを調べよう(理科:太陽の光)	micro:bit																																																										
総合	町たんけん	Scratch																																																										
社会	かわる道具とくらし	Visucuit																																																										
理科	明かりをつけよう	Visucuit																																																										
4・5月																																																												
6・7月																																																												
9・10月																																																												
11・12月																																																												
1・2・3月																																																												

各教科書の年間指導計画に基づいて設定した内容
年間を通して学習時期が流動可能な内容

プログラミング教育 年間指導計画 (案)【小学4～6年生】

学年	4年		5年		6年	
	・Viscuit/Scratch 教科内容に即した学習 ・micro:bit 他教科と関連したプログラム作成		・Viscuit/Scratch 教科内容に即した学習 ・プログラ 応用問題への挑戦 ・micro:bit 他教科と関連したプログラム作成		・Viscuit/Scratch/micro:bit 教科内容に即した学習 発展的な内容 ・micro:bit 他教科と関連したプログラム作成	
	教科	単元(題材)	教科	単元(題材)	教科	単元(題材)
4・5月	特活	自己紹介をしよう	国語	漢字の成り立ち	特活	腹筋カウンターを作ろう (体育:体カテスト)
			特活	明るさを調べよう(理科・植物の発 芽と成長)		
6・7月	社会	都道府県クイズを作ろう	図工	形が動く絵が動く	音楽	作曲をしよう
			音楽	音のスケッチ 和音に合わせて せんりつをつくろう		
9・10月	特活	グループで音楽を演奏しよう(トーン チャイム風)	算数	公倍数	社会	明治の新しい国づくり
11・12月	音楽	おはやしのリズムを楽しもう	総合	お米ができるまで	理科	電気と私たちの暮らし
	国語	本をみんなにすすめよう	特活	歩数計を作ろう(算数:平均)		
1・2・3月	社会	わたしたちの県のまちづくり	算数	円と多角形	特活	下級生を楽しませよう (ゲーム作り)
	理科	生き物の1年をふりかえって	特活	明るさを調べよう(家庭科:暖かく快 適に過ごす住まい方)		

各教科書の年間指導計画に基づいて設定した内容
年間を通して学習時期が流動可能な内容

(2) 教育実践

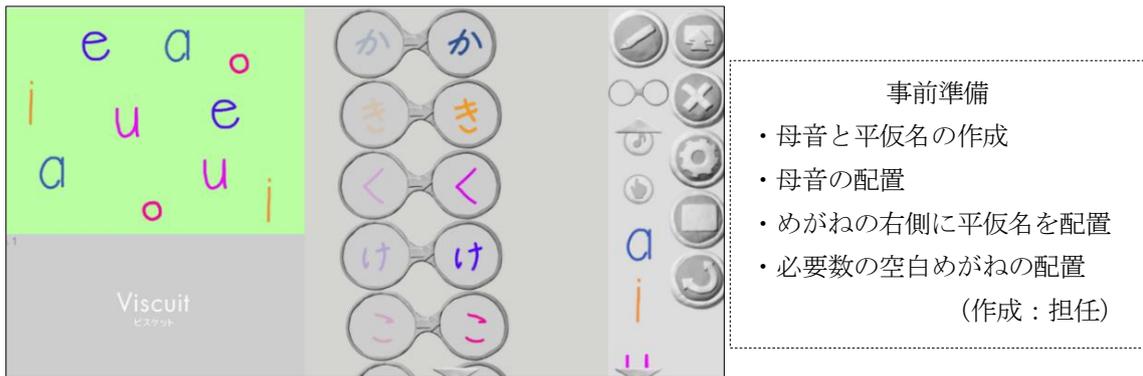
① 児童の実態に焦点を当てた授業づくり

対 象 : 小学3年生

教科・単元名 : 国語「ローマ字」

指導目標 : ローマ字学習に意欲を持ち、ローマ字習得の定着につなげる。

児童の実態 : ローマ字学習が始まったばかりでローマ字の読み書きが難しい。  
タブレットの扱い方や書字技能に差がある。



主な学習活動	指導上の留意点 ◆評価
1 めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に応じ、事前準備をする。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ローマ字ゲームを作ろう</div>	
2 ローマ字ゲームを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前準備の内容を確認する。</li> <li>か行を作成するために必要な子音を考えさせる。</li> <li>「k」と「a」と合わせると「か」ができることに気付かせる。</li> </ul>
3 ローマ字ゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名を作るための「k」の配置や動きを考えさせる。</li> <li>◆母音と「k」の重なりで作成できる平仮名を理解し、「k」の動きや配置を考えることができたか。</li> </ul>
4 次時の学習に見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後学習するローマ字でも同様のゲームができることに気付かせ、次時の学習に意欲を持たせる。</li> </ul>

授業開始時、児童は初めての Viscuit に「早く始めたい。どんなことをするのだろう。」とわくわくしていた。事前準備のプログラムに抵抗はなく、説明を聞きながら必要な子音を考え、作成に取り組めた。また、ローマ字ゲームの際には、めがねの中の配置場所によって「k」の動く速さが変わること友に伝えたり、友達と自分のタブレット画面を見比べたりしながら学習を進めていた。出前授業後も担任が同じ単元で継続して指導した結果、事前準備なく、全てのプログラムを児童一人で作成できるようになったそうだ。

② 児童の思いに焦点を当てた授業づくり

対 象 : 小学6年生

指導目標 : プログラミングの仕組みや楽しさを知る。  
 プログラミングと生活の結びつきに気付き、学習や生活に役立てる。

児童の思い : (第一次) プログラミングって何だろう。



(第二次) Scratch って楽しい。ゲームみたい。作ってみたいけど、ゲーム会社や大人が作るものだろうな。



(第三次) 子どももプログラミングで生活に役立つ物を作ることができるんだ。作ってみたい。

指導計画

(1時間=45分)

次	時間	教科・単元(題材)名	プログラミング教材
一	2時間	社会「歴史スリーヒントクイズを作ろう」	Scratch
二	2時間	理科「電気と私たちの暮らし」	Scratch
三	4時間	特活「幼稚園児が楽しむゲームを作ろう」(キャリア教育)	Scratch, Viscuit

第一次

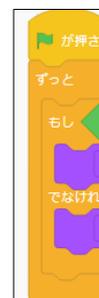
教科・単元名 : 社会「歴史スリーヒントクイズを作ろう」(研究紀要 第61集 参照)

第二次

教科・単元名 : 理科「電気と私たちの暮らし」

指導目標 : 考えた条件に合ったプログラムを作成できる。  
 プログラミングと生活の結びつきに気付き、学習や生活に役立てようという気持ちを持つことができる。

主な学習活動	指導上の留意点 ◆評価
1 めあてを確認する。  条件を考え、プログラミングを作ろう	・プログラミングの見本を見せ、イメージを持たせる。
2 プログラミングをする。	・キーボード操作のプログラムを全体指導する。 ・フローチャートを用い、グループでプログラムを考えさせる。 ・段階ごとにヒントを出す。 【第1段階】(カテゴリーのみ知らせる。)  から1つずつ, 制御 から2つ選択するブロックを考えさせる。 ・反応については  から自由に選択させる。 【第2段階】(プログラムの一部を見せる。)
3 グループ発表をする。	◆自分たちで考えた条件のプログラミングができたか。
4 本時のまとめをする。	・生活の中にあるプログラミングに関するフローチャートや動画を提示する。 ◆プログラミングと生活の結びつきに気付くことができたか。



### <作成プログラム>

ねこりんごが 100 より遠い    ねこりんごが 100 より近い

プログラミング作成をグループ活動にしたが、実際は個人で作成する児童が多かった。話し合いながら作成することで意見が出やすいと考えたが、個人→グループ→全体、または個人→全体のよう個人で考える時間が必要だった。そこで、個人の活動に変更して授業を行った。また、段階を踏まえてヒントを例示したが、使用するブロックの見当付けが難しく、ほとんど全てのプログラムを提示することになった。

授業のまとめでは、同学年の児童が家族の生活改善のために作成したプログラミングを紹介した。すると、「自動ゴミセンサーや物を持って来るロボットを作りたい。」「プログラミングは、安全や健康のために使えることがわかった。」と生活と結びつけた意見が出てきた。「プログラミング＝ゲーム、大人だからできるもの」と客観的に捉えていた児童が、「自分も生活のために役立つ物を作りたい。自分も作ることができるかもしれない。」と主観的な捉えに変わった瞬間だった。

### 第三次

教科・題材名：特活「幼稚園児が楽しむゲームを作ろう」

指導目標：学習したことを生かして、園児が喜ぶゲームを作成することができる。

指導計画

時	時間	学習活動
1	20分	・ゲームの見本を見る。 Scratch：迷路・ビデオモーション機能を使用したゲーム Viscuit：シューティングゲーム
2	90分	・3つのゲームの簡易版を作り、イメージを持つ。 ・次回までに自分が作成したいものを1つ決めておく。
3	90分	・ヒントプリントを参考にしてゲームを作成する。 ・友達のゲームを体験する。 ・作成したゲームを他学年に体験してもらい、改善点を考える。
4	45分	・園児にゲームの説明を行い、交流する。

<ヒントプリント>

**迷路**

- 1 迷路を作って、PCに保存する。
- 2 背景の  にマウスを置き、 から保存した迷路を開く。
- 3 縦横の向きを調整する。（「ベクターに変換」をクリックし、保存した迷路をクリックする。青い枠線を使い、90度回転したり広げたりする。）
- 4 キャラクターの動きを設定する。



- 5 ①キャラクターを迷路のコースに入る大きさに変更する。 
- ②スタートの位置を設定する。 
- ③〇色に触れたら、音を鳴らす、色・渦巻き・魚眼レンズを使った楽しい設定を入れる。



**ビデオモーション**

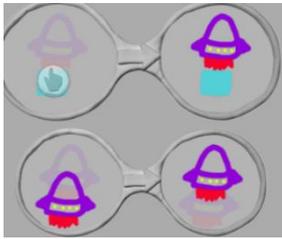
※ 文字・音・大きさ・色・動きを組み合わせる。例)



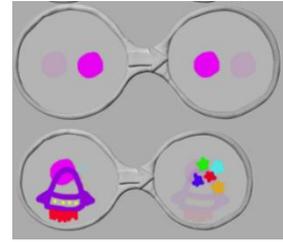
## シューティングゲーム

☆動き方を考える。

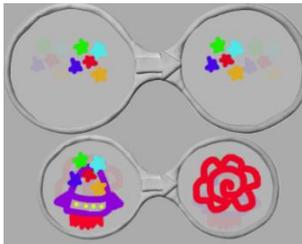
①クリックしたら、ロケットが変わって、上に飛ぶ。②ボールが横に動いて、ロケットに当たると星になる。



と星になる。



③星が横に動いて、ロケットに当たると「はなまる」になって終わる。



第2時では、全種類作成することに5つの利点があると考え、全体指導の中で各20分の簡易な作品を作成した。

[利点1] 作品のイメージを掴むことができる。

[利点2] 友達の作品や進捗状況を気にせず、自分の作品に集中できる。

[利点3] 学級で作品の話をして誰とでも理解し合える。

[利点4] 学級全体のプログラミング経験値を上げることができる。

[利点5] 次時の指導がスムーズになる。

予想通り第3時は、ヒントプリントを参考にしたり、友達と教え合ったりしながら集中して作成できた。第4時では、園児の目線に合わせて寄り添い、繰り返し優しく操作方法を教える姿や褒めたり盛り上げたりする姿が見られた。ゲームに夢中になって喜ぶ園児の様子から自信や達成感を感じた児童や「描いた絵が幼稚園児の好きな絵じゃなかったかもしれない。次は幼稚園児が喜ぶ絵にしたい。」と自分と園児の感じ方や考え方に違いがあることに気づき、相手の立場に立って考えるきっかけになった児童もいた。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 「ミライム」の掲示板の活用や出前授業でプログラミング教育の普及ができた。

掲示板の既読数は100を超え、掲載内容を印刷して全教職員へ配布した学校や掲示板を見た教員から出前授業の依頼があった。出前授業の事前打合せは、プログラミングが初めての教員や経験が少ない教員にとって操作習得の時間となり、授業内容の共通理解の場となった。出前授業で使用する見本プログラミングの作成やT2として指導して下さる等、一緒に授業を作り上げることもできた。授業後は「次の時間に別の内容でクイズ作りをしよう。」と児童に次時の予告をされており、今後の継続した指導が伺えた。プログラミングの操作を習得し、指導経験を重ねることで、PCやプログラミングの操作トラブルにも対応できると考える。

## ② 指導方法の工夫により、指導時の課題が解消でき、教育的効果を高められた。

### ・プログラムの事前準備

事前準備の実施により、授業のねらいに焦点を充てた指導ができ、児童の考える時間や作成時間の確保になった。作品完成時に生じる時間差の短縮にもつながった。

### ・授業形態や手立て

全体学習では活動の見通しとなる作品のイメージを掴ませ、その後の個別学習でヒントプリントを用意した。児童は、適宜ヒントプリントを使用したり友達と教え合ったりしながらスムーズに学習を進め、創意工夫を凝らした作品が完成した。授業形態や手立ての工夫により、プログラミングの理解度の差に応じた指導ができた。

### ・他者との交流

児童が作成したゲームを園児が体験する中で、児童は園児のわずかな反応から自分と絵の好みが違うことに気が付いた。そして次時は「幼稚園児が喜ぶ絵にしたい。」という考えに変わった。他者との交流により、相手の立場に立って考えることの大切さに気付かせることができた。

## (2) 課題

### ① 全教員がプログラミングに取り組みやすい研修の実施

今後プログラミングの研究は各教科の中で行われ、導入時に開かれた基礎基本の研修がなくなっていくことが予想される。全教育活動の中で行われるプログラミング教育は、全教員が指導にあたらなければならない。しかし、プログラミング教育が当たり前になればなるほど未経験の教員は「指導したことがない。操作がわからない。」と言いにくなっていくのではないだろうか。ここ数年は、各市・町・学校単位で希望者を募り基本操作の研修を行う等、全教員がプログラミングを経験することが指導力を高めるために効果的だと考える。

### ② 指導内容・指導方法の研究の継続

家庭や学校で児童がプログラミング経験を積んでいくと、数年後は現時点とは違う指導内容や指導方法に変わっていくのではないだろうか。また、PCやプログラミングの操作や理解の差の広がりも考えられるだろう。児童の実情によって指導内容や指導方法の研究が必要である。

## 6 おわりに

プログラミング教育の導入と同時に本研究所に赴任し、研究に取り組んだが、実はPCやICTは苦手である。「苦手だからこそ見えることや伝えられることはある。自分自身をステップアップさせる機会である。」と捉えて研究を進めてきた。プログラミングの面白さに魅了されながら教材と向き合い、出前授業を通して改めて授業の大切さとその責任を感じた。この場をお借りし、本研究にあたり授業の機会を与えて下さりご協力いただいた学校や先生方、ご指導いただいた先生方に感謝の意を表す。今後は本研究所での学びを現場で生かし、実践を積み重ねていきたい。

### 【参考文献，参考 URL】

- ビスケット viscuit | コンピュータは粘土だ！！ <https://www.viscuit.com/>  
Scratch で始めよう！プログラミング入門 - Scratch Studio <https://scratch.mit.edu/studios/1168062/>  
Microsoft MakeCode for micro:bit <https://makecode.microbit.org/?lang=ja>

既刊「研究紀要」の内容一覧（平成元年～）

集	年度	内 容
30	平成 元	園外の地域環境を生かし、幼児の主体性を育てるための活動は、どのようにすればよいか 幼稚園第2ブロック共同研究 小規模校の特性を生かし、児童一人一人に応じた指導をめざして －学校・家庭・地域が一体となって－ 池田町 下野呂内小学校 「子どもが生き生きと取り組む、豊かな教育活動」 －ふるさと意識を高めるために－ 山城町 山城小学校 明日を担う心豊かで自主性のある生徒の育成 －ボランティア活動を通して－ 井川町 井川中学校 へき地の特性を生かし、一人一人がたくましく伸びる魅力ある学校の創造 －同单元類似内容の指導の試み－ 池田町 出合小学校 郡内家出少女についての考察 三好郡青少年育成センター 久原 啓治 樹木面に見られる心の世界Ⅱ －児童・生徒の理解と援助のために－ 三好郡教育研究所員 入江 宏明
31	平成 2	ふるさとでの活性化をになう子どもたちの自発性をほりおこすために 西祖谷山村 善徳小学校 教諭 徳善 之浩 体験を通して豊かな心を育て、実践まで高める道徳教育 三加茂町 三庄小学校 教諭 吉田美千代 一人一人が主体的に取り組む、活力ある生徒の育成をめざして 池田町 池田第一中学校 教諭 小島 治子 西字小学校における生活科年間計画 －平成4年度教育課程完全実施へ向けての新しい試み－ 山城町 西字小学校 教諭 内田三千代 英語指導助手（AET）とのティーム・ティーチングを通して 池田町 池田中学校 教諭 木藤 康子 －コミュニケーション能力の育成のために－
32	平成 3	主体的な生活を促す幼稚園教育 －人とのかかわりをとおして－ 第3ブロック幼稚園 池田町 川崎幼稚園 教諭 林 節子 馬場幼稚園 教諭 丸岡 明美 西山幼稚園 教諭 東川たつ子 子どもが主体的に取り組む特別活動 －たて割り班の活動を通して－ 井川町 井内小学校 教諭 立川 義輝 自らが心身ともに健康な体づくりに取り組む児童の育成 －進んでむし歯予防に取り組む白地っ子を目指して－ 池田町 白地小学校 養護教諭 平田志津子 生徒が生き生きと活動するための手立てはどのようなであればよいか －学校行事などの活動を通して－ 山城町 山城中学校 教諭 佐藤英一郎 一人ひとりを生かす評価活動 －学習意欲を高める理科の指導－ 三好郡教育研究所員 藤本 智恵
33	平成 4	主体性を伸ばし、実践力を育てる特別活動 －個性を重視した、たて割りグループによる児童集会活動を通して－ 山城町 大野小学校 教諭 上田 優 へき地小学校における性教育についての研究 －性教育の実践を通して－ 東祖谷山村性教育研究会 和田小学校 教諭 松村 直也 ふるさとを愛する心の育成を目指して －体験的活動を通して－ 西祖谷山村 西祖谷中学校 教諭 篠原 一仁 中学校国語科書写における行書指導 －行書を活用した筆写活動の日常化をめざして－ 三好郡教育研究所 研究員 岸 敬子
34	平成 5	健康でたくましい子どもの育成をめざして －主体的に取り組む活動－ 第3ブロック幼稚園 教諭 上林加津子 永田 協子 自然に感動し、主体的に学び続ける児童の育成 －一人一人の表現活動を高め、科学的な見方や考え方を育てる理科学習－ 三野町 王地小学校 教諭 安西 政和 自ら学び、自らきたえる心豊かな子どもの育成 －ボランティア活動をとおして－ 三好町 昼間小学校 教諭 武岡 澄代

		奉仕等体験学習を通して、思いやりのある心豊かな生徒の育成 池田町 池田中学校 教諭 古林 久代 英語指導を通して平和教育をすすめる一私案 -ピース・メッセージの実践を通して- 三好郡教育研究所 研究員 長谷 郁代
35	平成 6	地域に開かれた学校づくり -すこやかな児童の育成をめざした、地域ぐるみで取り組む学校行事- 山城町 大和小学校 教諭 久保 満男 小規模校における環境教育の取り組み -教科, 特別活動の実践を通して- 池田町 馬路小学校 教諭 細川 敬雄 地域とともにあゆむ生徒の育成をめざして 三好町 三好中学校 教諭 玉木 利典 選択履修の幅の拡大 -家庭科- 三好郡教育研究所 研究員 佐々木 待子
36	平成 7	主体的な生活を促す幼稚園教育 -幼児が自分らしさを発揮して生活する環境と援助を考える- 第4ブロック幼稚園 山城幼稚園 蔵下美千子 思いやりのある心豊かな児童の育成をめざして -「いじめ」を許さない学校づくりへの取り組み- 三好町 加茂小学校 教諭 小笠 健二 「郷土を愛し、心豊かな児童の育成を目指して」 -体験学習・ボランティア活動を通して- 西祖谷山村 吾橋小学校 教諭 濱口 久弥 生徒会活動の活性化をめざして -自ら考え、行動する生徒会活動への教師の支援- 三好町 三好中学校 教諭 山西 敏広 生活に生きる書写力の育成を目指して -中学1年生への意識調査と実践例- 三好郡教育研究所 研究員 栗田 典子
37	平成 8	地域に根ざした福祉・ボランティア教育 -施設訪問を通して- 井川町 辻小学校 細川 文男 『ふるさとを愛し、人間として主体的に生きる生徒の育成』 山城町 大野中学校 小学校国語の文法的事項の指導 -「何について」「どのように」「どこまで」指導するか- 三好郡教育研究所 研究員 吉田美千代
38	平成 9	幼稚園において、幼児の興味や欲求に応じ、幼児とともに充実した生活をつくりだすためには、環境を どのように構成すればよいか 第1ブロック幼稚園 教諭 宮成 典子 物やお金を大切に、思いやりのある豊かな心を持つ児童の育成 池田町 三縄小学校 教諭 森本 明子 環境教育 Think Globally, Act Locally を目指して -積極的に環境と関わり、責任ある行動がとれる生徒の育成- 三好町 三野中学校 教諭 丸岡 美枝 学校不適應問題の諸相と教師の援助について 三好郡教育研究所 研究員 山田恵美子 学級担任の教師が行う教育相談 -ある不登校児とのかかわりを通して- 三好郡教育研究所 研究員 吉田美千代
39	平成 10	身近な環境に意欲的にかかわり、よりよい環境づくりや環境保全に配慮した望ましい行動がとれる児童 の育成 山城町 政友小学校 教諭 大西公美子 一人一人の個性を尊重し、豊かな心と、『生きる力』を育むために -地域に育てられ、地域と共に伸びる生徒の育成- 東祖谷山村 東祖谷中学校 教諭 梶原真里子 今、子どもたちの心は? -三好郡内小中学生意識調査から- 三好郡教育研究所 研究員 吉岡 弘恵 三好郡教育研究所 研究員 山田恵美子
40	平成 11	魅力ある幼稚園教育の創造 (三好町三園の取り組み) -生活体験や自然体験を通しての生きる力の育成- 三好町内幼稚園 ふるさとに立ち、たくましく生きる力をもつ、心豊かな子どもの育成 -名頃を見つめ、名頃を愛する学習を通して- 東祖谷山村 名頃小学校 教諭 橋本 隆 「人権感覚豊かな心」と「共に生きる力」を育む教育の創造 -「選択の時間」を生かした取り組みの中で- 井川町 井川中学校 教諭 内田 典善 授業の効果を高めるためのコンピュータ利用のあり方 三好郡教育研究所研究員 西井川小学校 吉岡 弘恵 英語科においてコミュニケーション能力を育成するために 三好郡教育研究所研究員 三好中学校 新居 信子

41	平成 12	<p>「ひと・もの・こと」とのかかわりを通して、生きる力を育む王地学習 王地小学校 教諭 北川ひとみ</p> <p>自ら学び、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成 -地域の特性を生かした取り組みの中で- 池田第一中学校 教諭 立花 久</p> <p>三好郡における情報教育の現状とその考察 -郡内小中学生・教職員の意識調査から- 三好郡教育研究所 研究員 池田中学校 木藤 和恵 三好郡教育研究所 研究員 三好中学校 新居 信子</p>
42	平成 13	<p>「生きる力」を育む幼稚園教育のあり方 -幼児が自ら生活していくための教師の役割- 白地幼稚園 教諭 木徳 友子</p> <p>「ふるさとを愛し、共に学びあう心豊かな児童の育成」 -へき地の特性を生かした様々な体験活動をとおして- 東山小学校 教諭 高篠 佳子</p> <p>生きる力を養う生徒の育成 山城中学校 教諭 白井 正道</p> <p>T T授業や少人数授業を実施した徳島県の連絡協議会資料(平成12年度・13年度)から中学校数学におけるT T授業について考察する 三好郡教育研究所 研究員 池田中学校 上田 美恵</p> <p>自ら学び、豊かな心を育てる学校図書館についての研究 三好郡教育研究所 研究員 池田中学校 木藤 和恵</p>
43	平成 14	<p>豊かな感性をはぐくむ教育の創造 -金子みすゞの心を活かした詩の指導をとおして- 三好郡教育研究所 研究員 西井川小学校 小角 昌美</p> <p>数学で基礎基本の力をつける方法をさがして 三好郡教育研究所 研究員 池田中学校 上田 美恵</p> <p>地域における教育ネットワークの活用とコーディネータの役割 -学校インターネット指定から始まった三好郡の教育ネットワーク- 三好郡ネットワークセンターICTコーディネータ 中川 齊史 生藤 元</p>
44	平成 15	<p>生きる力をはぐくむ幼稚園教育のあり方 -身近なものに興味を持ち、活動を豊かにするためには、教師はどのようにかかわればよいか- 吾橋幼稚園 教諭 山口 里子</p> <p>「生きる力」を育む総合的な学習 -ふるさとを愛し、人や自然と積極的にかかわろうとする児童の育成をめざして- 出合小学校 教諭 岡 佳子</p> <p>「ふるさとを愛し、豊かな感性を持ち、自らの力で未来を創造しようとする子どもの育成」 西祖谷中学校 教諭 富永 浩史</p> <p>「生きる力」をはぐくむ美術教育美術の基礎基本の力を身につけ、個性を生かす指導について -人として心豊かに生きていくことのできる力を育てるために- 三好郡教育研究所 研究員 田口美千代</p> <p>生きる力をはぐくむ教育の探求 -「本との出会い」をとおして- 三好郡教育研究所 研究員 小角 昌美</p>
45	平成 16	<p>ふるさとの歴史や自然、文化にふれる活動を通して、自ら学び心豊かに生きる子どもの育成 下名小学校 教諭 高岡 和恵</p> <p>『地域から学ぶ「生きる力」の育成』 池田中学校</p> <p>「みる力」を育てる美術教育 -美術の基礎・基本をみつめて- 三好郡教育研究所 研究員 田口美千代</p> <p>学校の情報化をどのように進めるか 三好郡教育研究所 研究員 生藤 元</p>
46	平成 17	<p>幼稚園において、幼児と人やものとのかかわりが重要であることを踏まえ、幼児の主体的な活動を確保するための物的・空間的環境をどのように構成していくか 第1ブロック 三野町・三加茂町幼稚園研究グループ</p> <p>地域や学校の特性を生かし、一人ひとりの『生きる力』を伸ばす生活科・総合的な学習の時間 絵堂小学校 教諭 鶴田 美枝</p> <p>地域や人に関わる体験的な活動を通して、自ら考える生徒の育成 三好中学校 教諭 野田 圭祐</p> <p>三好郡小学校における情報教育の現状について 三好郡教育研究所 研究員 生藤 元</p> <p>文字式の指導に関する研究 -1年文字式における生徒の理解の仕方について- 三好郡教育研究所 研究員 上田 美恵</p>

47	平成 18	子どもの豊かな言語感覚を養う指導 -主体的により良く伝え合う力の育成をめざして- 西井川小学校 教諭 丸本 豊美 地域に学ぶ総合的な学習の時間 -共に生きる町づくりについて考えよう- 三加茂中学校 教諭 玉木 利典 三好郡・市の小学校における情報教育の現状 三好教育研究所 研究員 生藤 元
48	平成 19	「健全な心身の成長をめざして」 -高齢者や保護者とのふれあいや連携を図りながら- 第2ブロック 三野町・井川町幼稚園研究グループ 「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」自らの食生活に関心を持ち、す すんで健康づくりに取り組む子どもの育成 -学校・家庭・地域の連携した取り組み- 池田小学校 栄養教諭 大西 欣美 「確かな学力」を身につけさせるために -プレゼンテーション能力の育成とICT機器の利用- 三野中学校 教諭 中川 悌二 「グラフを書くのは何のため？」 -何でもかんでも「%」からの脱却で、知的な分析を- 三好教育研究所 研究員 中川 斉史 「学校現場の生活を便利に工夫し能率化を図ろう」 -子どもたちに「創意工夫」の精神が大切なことを伝えよう- 三好教育研究所 研究員 西井 昌彦 「中学校理科におけるICT機器の活用」 -評価活動におけるマークシートの利用- 三好教育研究所 研究員 山田 泰弘
49	平成 20	ふるさとを愛し、ふるさとを元気にする心豊かな子どもを育てる 櫛生小学校 教諭 谷川 智彦 小規模校の良さを生かした修学旅行の実践 -『バスガイドさん・運転手さん・添乗員さんとのふれあい』を中心として- 東祖谷中学校 教諭 高崎 英和 授業カイゼンとICT活用 三好教育研究所 研究員 中川 斉史 体育科における効果的なICT機器の活用について 三好教育研究所 研究員 西井 昌彦 「小学校情報テキスト」の利用状況について 三好教育研究所 研究員 中川 斉史 学級づくりにおける分析と対応の一考察 -構成的グループエンカウンターを考え方を生かして- 三好教育研究所 研究員 石丸 秀樹
50	平成 21	幼稚園での確かな学び・小学校での確かな学力をめざして -人やものとのかかわりを深め、豊かな感性や思考力の芽生えを育てる- 山城幼稚園 教諭 山中あけみ 池田幼稚園 教諭 大久保珠美 新しい学力観をふまえた学びの創造 -習得型学力から活用型学力へのステップ- 足代小学校 教諭 熊井 美樹 ボランティア活動を通じて生徒の自主性を育てる 井川中学校 教諭 村上 郁代 小学校外国語活動の現状と今後の在り方 -小・中における英語教育の連携を目指して- 三好教育研究所 研究員 藤本 恒幸 授業におけるICT活用の促進についての課題 三好教育研究所 研究員 福田 ミカ
51	平成 22	「人間力」を育てる総合的な学習の時間・生活科の創造 -人・地域との関わりの中で育つ豊かな学びの追求- 芝生小学校 教諭 小原 敏二 「ふるさとを愛する心」を育てる 山城中学校 教諭 内田 清文 実物投影機の活用目的の明確化 -実物投影機利用意図の可視化を通して- 加茂小学校 教諭 福田 ミカ 三好市・三好郡の中学生の都道府県認知の実態 三好教育研究所 研究員 山西 敏広 三好郡市小・中学校における情報モラル教育の現状と課題 -三好郡市小・中学校学級担任アンケート調査と研究授業より- 三好教育研究所 研究員 山口 恭史
		豊かな感性や思考力の芽生えを培う保育内容の創造 -小学校との連携の中で育つ「学びの芽生え」- 大野幼稚園 教諭 谷本 紀子 地域から学び、ふるさとを愛する心豊かでたくましい子どもの育成 -学びを生かし、自らを表現できる佐野っ子をめざして- 佐野小学校 教諭 山田 知弘

52	平成 23	人や地域とつながり、協働できる生徒の育成 －「コミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」をとおして－ 西祖谷中学校 教諭 西岡ひとみ 三好市・三好郡の中学生の都道府県認知のイメージ 三好教育研究所 研究員 山西 敏広 平成23年度三好郡市小・中学校学級担任の情報モラル教育 －グループウェアによるアンケート調査と低・中・高学年研究授業より－ 三好教育研究所 研究員 山口 恭史
53	平成 24	家庭や地域、中学校との連携を密にした特色ある学校づくり －小学校の統合と小中連携教育の中で育つ学び－ 東祖谷小学校 教諭 森永 直美 人・社会・自然とのつながりの中で人間性を育む教育活動 池田中学校 教諭 丸岡 美枝 －E S D（持続発展教育）の視点を取り入れて－ 三好郡・市小中学校における情報モラル教育 －学級担任アンケート調査と研究授業より－ 昼間小学校 教諭 山口 恭史 「小学校外国語活動についてのアンケート」から見えてくること 三好教育研究所 研究員 山下 達也 三好市・三好郡の小・中学校におけるICT活用状況について 三好教育研究所 研究員 岡本 博一
54	平成 25	豊かな心をはぐくむ幼稚園教育 －様々な体験活動を通じて、地域の人々や同年齢、異年齢の子どもたちとふれあう交流活動の実践研究－ 昼間幼稚園 教諭 佐藤 重美 地域とともにある学校をめざして －地域の教育力を生かして育てる三庄っ子－ 三庄小学校 教諭 三好美智代 生徒一人ひとりの思いが尊重され、つながりを大切にする活動を通して 三好中学校 教諭 近藤 剛 複式学級における指導の充実を目指して 三好教育研究所 研究員 赤堀 誠司 ICT活用の推進と情報モラル教育 三好教育研究所 研究員 岡本 博一
55	平成 26	家庭や地域と手を取り合って心豊かな子どもをはぐくむ教育活動の実践 ～多くの人々とふれ合う体験的な活動や学校行事を通して家庭や地域と手を取り合って心豊かな子どもをはぐくむ教育活動の実践～ 井内小学校 教頭 住田 克弘 豊かな心と、自ら学ぶ力を育てる中学校教育の創造 ～学校図書館を中心として～ 三加茂中学校 教諭 山下ちづる 小中連携教育～東祖谷小中学校の取り組み 三好教育研究所 研究員 岡本 博一 複式学級におけるパソコンを活用した算数科の授業 三好教育研究所 研究員 赤堀 誠司 社会科における思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫 ～討論活動を取り入れた授業づくり～ 三好教育研究所 研究員 井川 秀樹
56	平成 27	自分で気づき、考え、実行し、仲間とともに未来を生きぬく心豊かな子どもの育成 ～地域との交流を通してふるさとの魅力再発見～ 箆蔵小学校 教諭 藤原 隆司 出会いをつなぎ、自己を見つめ、自他の人権を尊重する生き方を求めて 三野中学校 教諭 尾形 君代 ～識字学級との交流を通して～ 「読む知る感じる」読書環境をめざして ～学校図書館教育の実践と課題～ 三好教育研究所 研究員 加藤 公夫 児童・生徒の生活環境の改善を目指して ～ネット端末（スマホ等）の使用時間を見直して～ 三好教育研究所 研究員 井川 秀樹
57	平成 28	地域から学び、郷土を愛し、主体的にたくましく生きる児童の育成 ～様々な人とのかかわりや体験活動を通して～ 山城小学校 教諭 井上 清隆 「生きる力」を育む土曜授業実践の成果と課題 三好教育研究所 研究員 加藤 公夫 関わりの中で主体的に学び豊かな感性を育む鑑賞教育 ～見て、考えて、表して、意見を交わす～ 三好教育研究所 研究員 宮成万寿美
58	平成	変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く日本人の育成 ～身近な自然や人とのかかわりをとおして しなやかな心と体をはぐくむ保育の工夫～ 西井川幼稚園 教諭 元木 真砂代 豊かな心を持ち、未来に向かって主体的に行動する子どもの育成 ～一人一人のちがいを認め、助け合う仲間づくりを通して～ 王地小学校 教諭 濱口 ミエ

29		社会科デジタル教材の開発と活用 ～ I C T の有効な活用をめざして～ 三好教育研究所 研究員 常村 淳 生徒の意欲関心を高め、豊かな感性や思考力を育成する主体的な学びについて ～美術科における提示型デジタル教材の作成と活用を通して～ 三好教育研究所 研究員 宮成万寿美
59	平成 30	自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度の育成 ～実践的な安全教育の取り組みを通して～ 昼間小学校 教諭 久原 有里 生徒の意欲関心を高め、豊かな感性を育成する主体的な学びについて ～美術科におけるデジタル教材の作成と活用を通して～ 三好教育研究所教育研究所 研究員 宮成 万寿美（現三野中学校） 興味関心を高め、基礎学力向上に役立つデジタル教材の開発と活用 三好教育研究所 研究員 常村 淳 誰もが分かる、楽しい授業を目指して ～ I C T の活用と U D を取り入れた授業の工夫～ 三好教育研究所 研究員 立花 志津
60	令和 元	小規模校における児童の資質・能力の育成 ～「何ができるようになるか」に焦点をあてて～ 白地小学校 教諭 小越 彩佳 豊かなかかわり合いの中で、たくましく自立できる子どもの育成 ～15歳の旅立ちに向けて～ 東祖谷中学校 教諭 西野 猛 オリンピック・パラリンピックを活用した教育 三好教育研究所 研究員 中瀧 由紀 安全で楽しい理科の観察・実験 三好教育研究所 研究員 立花 志津
61	令和 2	豊かな体験活動から学びを拓き、深める吾橋教育 ～へき地・複式・小規模校の特性を生かして～ 吾橋小学校 教頭 井上 清隆 表現リズム遊び・表現運動の指導の現状 - 調査から分かったこと、研修会で学んだこと - 三好教育研究所 研究員 中瀧 由紀 小学校の授業で活用できるプログラミング教育教材 三好教育研究所 研究員 橋本早弥香
62	令和 3	子どもの姿から考える幼小の接続について ～遊びから学びへ向かう子どもたち～ 三縄幼稚園 主任教諭 真鍋 友子(現白地幼稚園) 持続可能な食環境(食育ベース)の構築と「食の力」を身に付けた児童の育成 ～「マスク・手洗い・消毒・3密を避ける」だけじゃない!!『体の中からコロナ感染予防対策』～ 辻小学校 教諭 大岩 彩菜 低学年における「平仮名・片仮名」の読みの流暢性を目指して 三好教育研究所 研究員 上野三千代 プログラミング教育の普及と指導方法の探究 ～2年間の実践研究を終えて～ 三好教育研究所 研究員 橋本早弥香